

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第20集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 19

TSURUGAOKA SITE
鶴ヶ岡遺跡第6地点

KITANO SITE
北野遺跡第33地点

KAWASAKI SITE
川崎遺跡第44地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第85地点

NAEMAHIGASHIKUBO SITE
苗間東久保遺跡第33地点

JYUZENJIATO SITE
浄禅寺跡遺跡第40地点

2017年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成 17 年 10 月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成 27 年に 10 周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設など、近年の開発ラッシュに伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査・発掘調査6件の報告書である。
2. 本発掘調査に先立ち行った2015（平成27）年度の試掘調査と発掘調査および整理作業は、総経費10,005,757円に対し国庫補助金5,000,000円と県費2,500,000円の補助金の交付を受け、2015（平成27）年4月9日から2016（平成28）年3月31日まで実施したものの一部である。民間開発を原因として行った6件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
鶴ヶ岡遺跡第6地点	社会福祉法人あゆみの会	平成27年7月6日～平成29年3月31日
北野遺跡第33地点	岡島ウタ、タクトホーム(株)	平成27年12月15日～平成28年3月31日
川崎遺跡第44地点	千代田ホーム(株)	平成28年1月5日～平成29年3月31日
松山遺跡第85地点	近藤不動産(株)	平成27年10月19日～平成28年3月31日
苗間東久保遺跡第33地点	(株)堀井不動産	平成28年7月28日～平成29年3月31日
浄禅寺跡遺跡第40地点	加登 幸子	平成27年10月1日～平成29年3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	副課長兼文化財保護係長（2016.4.1から兼務）
担当課	社会教育課文化財保護係	高崎 直成（2013.4.1～）
教育部長	朝倉 孝（2014.4.1～）	文化財保護係調査担当 高崎 直成（2005.4.1～）
部長	中野 剛之（2015.4.1～）	高崎 直久（2005.4.1～）
		岡島 裕子（2015.4.1～）
課長	小林 清（2015.4.1～2016.3.31）	庶務担当 橋本祐可子（2015.4.1～）
	佐藤 龍司（2016.4.1～）	発掘調査員 越村 篤（2005.4.1～2015.9.30）
		鎌田 翔（2015.11.2～）
副課長	佐藤 龍司（2015.4.1～2016.3.31）	臨時的任用職員 高橋 京子（2005.4.1～）

5. 本書作成にあたっての作業分担は、事実報告及び遺構の執筆は第4章を岡崎、それ以外は鍋島が行った。遺物の執筆は第4章を岡崎、鎌田が行い、それ以外は鍋島が行った。石器の観察表作成を鎌田が担当した。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、鎌田翔。土器実測・拓本：明石千とせ、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。遺構・遺物図トレース：小林登喜江。図版作成：青山奈保美、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：鍋島直久、越村篤、岡崎裕子。レイアウト・遺物写真：大久保明子。報告書作成全般にわたり高崎、笹森健一（市文化財保護審議会委員）の協力を得た。発掘調査から整理作業、報告書刊行までの業務委託は次のとおりである。浄禅寺跡遺跡第40地点の発掘調査支援業務は株式会社中野技術に業務委託した。鶴ヶ岡遺跡の遺物実測・トレース、遺構・遺物図版作成と原稿執筆、遺物写真は有限会社アルケーリサーチに業務委託した。遺構図版作成の一部は株式会社東京航業研究所に業務委託した。
6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大屋道則、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、園見徹、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、清水理史、鈴木清、高木文雄、田中信、坪田幹男、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓啓、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福歴史民俗資料館、大井郷土資料館
7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）
青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、泉家浩孝、壺岐久子、石垣ゆき子、伊藤功、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、大久保明子、岡良子、岡本信勝、川中ひろみ、小池絵千花、小池恵美子、小林登喜江、坂本民子、佐竹里佳、澤田洋、重田恵子、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、辻村万史、當山りえ、中川圭子、中田藤子、野岡由紀子、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、藤丸亮介、増澤勝実、松平静、宮川幸佳、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例






1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、⁴などの詳細図 1:30、土器

実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 である。

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

攪乱 、地山（ローム） 、焼土 、貝層範囲 、煤 

土器 ●、石器 ★、黒曜石・チャート ▲、礫 ○である。

(4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

(6) 土器：陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 19 目次

はじめに	i
例言	ii
凡例	iii
目次	iv
挿図目次	v
表目次	vi
写真図版目次	vi
第1章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第2章 鶴ヶ岡遺跡第6地点の調査	5
I 遺跡の立地と環境	5
II 本調査に至る経過と調査の概要	5
III 遺構と遺物	8
第3章 北野遺跡第33地点の調査	12
I 遺跡の立地と環境	12
II 本調査に至る経過と調査の概要	12
III 遺構と遺物	13
第4章 川崎遺跡第44地点の調査	17
I 遺跡の立地と環境	17
II 本調査に至る経過と調査の概要	20
III 遺構と遺物	20
第5章 松山遺跡第85地点の調査	36
I 遺跡の立地と環境	36
II 本調査に至る経過と調査の概要	36
III 遺構と遺物	40
第6章 苗間東久保遺跡第33地点の調査	46
I 遺跡の立地と環境	46
II 本調査に至る経過と調査の概要	46
III 遺構と遺物	46
第7章 浄禅寺跡遺跡第40地点の調査	51
I 遺跡の立地と環境	51
II 本調査に至る経過と調査の概要	51
III 遺構と遺物	54
第8章 まとめ	71
写真図版	73
抄録	108

挿 図 目 次

<p>第 1 図 ふじみ野市の位置と周辺の地形・・・・・・・・・・ 1</p> <p>第 2 図 ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)・・・・・・・・・・ 3</p> <p>第 3 図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・・・・・ 5</p> <p>第 4 図 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)・・ 6</p> <p>第 5 図 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点旧石器遺物出土状況(1/40)・・ 7</p> <p>第 6 図 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点石器集中出土遺物(2/3)・・ 10</p> <p>第 7 図 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点が穴群(1/60)、出土遺物(1/4)・・ 11</p> <p>第 8 図 北野遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・・・・・ 12</p> <p>第 9 図 北野遺跡第 33 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)・・ 14</p> <p>第 10 図 北野遺跡第 33 地点集石土坑 1・2(1/30)・・・・・・・・ 15</p> <p>第 11 図 北野遺跡第 33 地点集石土坑 3～5(1/30)、出土遺物(1/4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16</p> <p>第 12 図 川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・・・・・ 17</p> <p>第 13 図 川崎遺跡の遺構分布図(1/2,500)・・・・・・・・・・ 19</p> <p>第 14 図 川崎遺跡第 44 地点遺構配置図(1/300)、溝土層(1/60) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22</p> <p>第 15 図 川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡・遺物出土状況(1/60) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23</p> <p>第 16 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡・H80 号住居跡(1/60) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24</p> <p>第 17 図 川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物①(1/4)・・ 27</p> <p>第 18 図 川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物②(1/4・1/2・ 2/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28</p> <p>第 19 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物①(1/4)・・ 29</p> <p>第 20 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物②(1/4)・・ 30</p> <p>第 21 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物③(1/4)・・ 31</p> <p>第 22 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物④・H80 号 住居跡・遺構外出土遺物(1/4)・・・・・・・・・・ 32</p> <p>第 23 図 川崎遺跡第 44 地点地下式坑(1/60)、貝層(1/30)・・ 33</p> <p>第 24 図 川崎遺跡第 44 地点貝層出土状況(1/30)・・・・・・・・ 34</p> <p>第 25 図 川崎遺跡第 44 地点土坑・ピット(1/60)・・・・・・・・ 35</p> <p>第 26 図 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・・・・・ 36</p> <p>第 27 図 松山遺跡遺構分布図(1/3,000)・・・・・・・・・・ 38</p> <p>第 28 図 松山遺跡第 85 地点遺構配置図(1/300)・・・・・・・・ 40</p>	<p>第 29 図 松山遺跡第 85 地点 H48 号住居跡(1/60)、竈・掘方(1/30) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42</p> <p>第 30 図 松山遺跡第 85 地点 H49 号住居跡・竈土(1/60)、溝土層説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43</p> <p>第 31 図 松山遺跡第 85 地点土坑・ピット・溝(1/120)、土層(1/80) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44</p> <p>第 32 図 松山遺跡第 85 地点出土遺物(1/4)・・・・・・・・・・ 45</p> <p>第 33 図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・ 46</p> <p>第 34 図 苗間東久保遺跡遺構分布図(1/1,000)・・・・・・・・ 48</p> <p>第 35 図 苗間東久保遺跡第 33 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、 土坑・ピット(1/60)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49</p> <p>第 36 図 苗間東久保遺跡第 33 地点出土遺物(1/4・2/3)・・・・・・ 50</p> <p>第 37 図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)・・・・・・ 51</p> <p>第 38 図 浄禪寺跡遺跡遺構分布図(1/2,000)・・・・・・・・・・ 53</p> <p>第 39 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点遺構配置図(1/500)・・・・・・ 54</p> <p>第 40 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡・土坑①・ピット①・ 遺構外遺物集中 1・2(1/60)・・・・・・・・・・・・ 56</p> <p>第 41 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡跡・埋裏・掘方(1/30) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57</p> <p>第 42 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡出土遺物(1/4)・・ 58</p> <p>第 43 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点集石土坑 1～3(1/30)・・・・ 59</p> <p>第 44 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点地下式坑・井戸・土坑②・ピット② (1/60)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60</p> <p>第 45 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点土坑③(1/60)・・・・・・・・・・ 61</p> <p>第 46 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点土坑④・ピット③(1/60)・・ 62</p> <p>第 47 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点ピット④(1/60)・・・・・・・・ 63</p> <p>第 48 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点溝①(1/80)・・・・・・・・・・ 64</p> <p>第 49 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点溝②・ピット⑤(1/80)・・・・ 65</p> <p>第 50 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点溝③(1/80)・・・・・・・・・・ 66</p> <p>第 51 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点出土遺物①(1/4)・・・・・・・・ 68</p> <p>第 52 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点出土遺物②(1/4)・・・・・・・・ 69</p> <p>第 53 図 浄禪寺跡遺跡第 40 地点出土遺物③(1/4・1/1)・・・・ 70</p>
--	--

表 目 次

第1表	ふじみ野市道跡一覧表	2	第14表	川崎道跡第44地点出土石器観察表	28
第2表	鶴ヶ岡道跡調査一覧表	6	第15表	松山道跡調査一覧表	37
第3表	鶴ヶ岡道跡第6地点出土石器観察表	8	第16表	松山道跡古代住居跡一覧表	39
第4表	鶴ヶ岡道跡第6地点炉穴一覧表	11	第17表	松山道跡第85地点土坑・ピット一覧表	40
第5表	北野道跡調査一覧表	13	第18表	松山道跡第85地点出土遺物観察表	45
第6表	北野道跡第33地点集石土坑・出土礫観察表	14	第19表	苗間東久保道跡調査一覧表	47
第7表	川崎道跡調査一覧表	18	第20表	苗間東久保道跡第33地点ピット一覧表	47
第8表	川崎道跡縄文時代住居跡一覧表	20	第21表	浄禅寺跡道跡調査一覧表	52
第9表	川崎道跡古代住居跡一覧表	21	第22表	浄禅寺跡道跡住居跡一覧表	52
第10表	川崎道跡第44地点J25号住居跡ピット一覧表	22	第23表	浄禅寺跡道跡第40地点4号住居跡ピット一覧表	55
第11表	川崎道跡第44地点地下式坑貝層一覧表	24	第24表	浄禅寺跡道跡第40地点集石土坑・出土礫観察表	55
第12表	川崎道跡第44地点J24号住居跡出土遺物観察表	25	第25表	浄禅寺跡道跡第40地点土坑一覧表	61
第13表	川崎道跡第44地点J25号住居跡・地下式坑・H80号住居跡・遺構外出土遺物観察表	26	第26表	浄禅寺跡道跡第40地点ピット一覧表	61
			第27表	浄禅寺跡道跡第40地点出土石器観察表	70

写真図版目次

写真図版1	鶴ヶ岡道跡第6地点試掘調査	73	写真図版19	苗間東久保道跡第33地点試掘・本調査(1)	91
写真図版2	鶴ヶ岡道跡第6地点本調査(1)	74	写真図版20	苗間東久保道跡第33地点試掘・本調査(2)	92
写真図版3	鶴ヶ岡道跡第6地点本調査(2)	75	写真図版21	浄禅寺跡道跡第40地点試掘調査(1)	93
写真図版4	鶴ヶ岡道跡第6地点本調査(3)	76	写真図版22	浄禅寺跡道跡第40地点試掘調査(2)	94
写真図版5	北野道跡第33地点試掘・本調査(1)	77	写真図版23	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(1)	95
写真図版6	北野道跡第33地点本調査(2)	78	写真図版24	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(2)	96
写真図版7	川崎道跡第44地点試掘調査(1)	79	写真図版25	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(3)	97
写真図版8	川崎道跡第44地点試掘調査(2)	80	写真図版26	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(4)	98
写真図版9	川崎道跡第44地点本調査(1)	81	写真図版27	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(5)	99
写真図版10	川崎道跡第44地点本調査(2)	82	写真図版28	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(6)	100
写真図版11	川崎道跡第44地点本調査(3)	83	写真図版29	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(7)	101
写真図版12	川崎道跡第44地点本調査(4)	84	写真図版30	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(8)	102
写真図版13	川崎道跡第44地点本調査(5)	85	写真図版31	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(9)	103
写真図版14	松山道跡第85地点試掘調査(1)	86	写真図版32	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(10)	104
写真図版15	松山道跡第85地点試掘調査(2)	87	写真図版33	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(11)	105
写真図版16	松山道跡第85地点試掘調査(3)	88	写真図版34	浄禅寺跡道跡第40地点本調査(12)	106
写真図版17	松山道跡第85地点本調査(1)	89	写真図版35	整理作業	107
写真図版18	松山道跡第85地点本調査(2)	90			

第1章 ふじみ野市の遺跡

I ふじみ野市の立地と環境

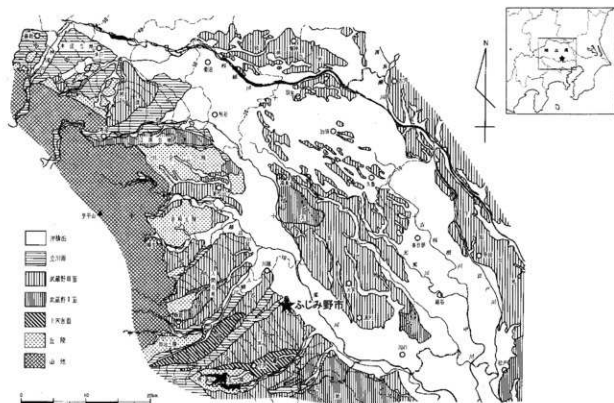
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図

で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



(原図 昭和三十九年一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに観覧する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤岡江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち溜っていたため「滝地区」の名

称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、6世紀代の古墳群、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代・古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福岡遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の館跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	淨輝寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宮遺跡	近世～近代の岩場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宮本戸跡	近世～近代の岩場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027

ふじみ野市全図



第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T 階灰前（立川ロームⅦ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡ではが穴、落し穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐高遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世

紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された墓石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。**【近世】** 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏居館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枡などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

第2章 鶴ヶ岡遺跡第6地点の調査

I 遺跡の立地と環境

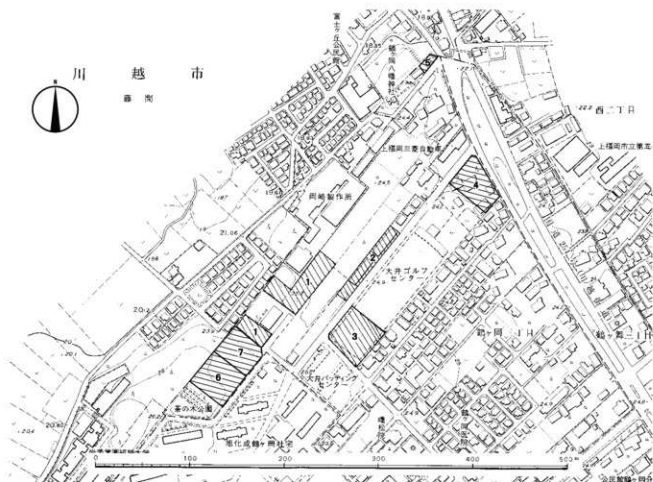
鶴ヶ岡遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高22mの台地北縁に立地する東西200m以上の広い遺跡であり、その範囲は、川越市とふじみ野市にまたがっている。表面採集の遺物として、縄文早期のほか中期の各時期、平安時代の土器が知られており、複合遺跡である事を示している。表面採集の遺物は北の崖面寄りが密であり、住居などの集中部分と思われる。この部分のうち、ふじみ野市鶴ヶ岡八幡神社に接する川越市域部分で、1988年に調査が行われたが、その際に勝坂期末の住居1軒・加曾利E I新期の住居1軒・加曾利E IV期の土坑などが検出され、ほぼ完形の有孔罅付土器を含む大量の土器と石器若干が出土している。また、本遺跡の下流にある西遺跡の一部が1992年以降の試掘・発掘調査で、阿玉台I b期、勝坂期II～III期、加曾利E III期の住居など24軒が、確認または検出されている。

ふじみ野市、川越市にまたがる本遺跡のうち、ふじみ野市分は1991年に旧大井町の体験学習園開設のため初めて試掘調査を実施し、2016年3月現在、7地点で試掘調査、本調査を行っている。2015年7月の第6地点の調査で、本遺跡で初めて旧石器時代と縄文時代早期のがけ群が検出された。2001年7月に埼玉県教育委員会が本遺跡の南西側を試掘調査しているが、遺構・遺物は確認されていない。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は保育園建設に伴うもので、原因者より2015年3月17日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は崖面上で、遺跡範囲の南西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年5月15日～27日に試掘調査を実施した。

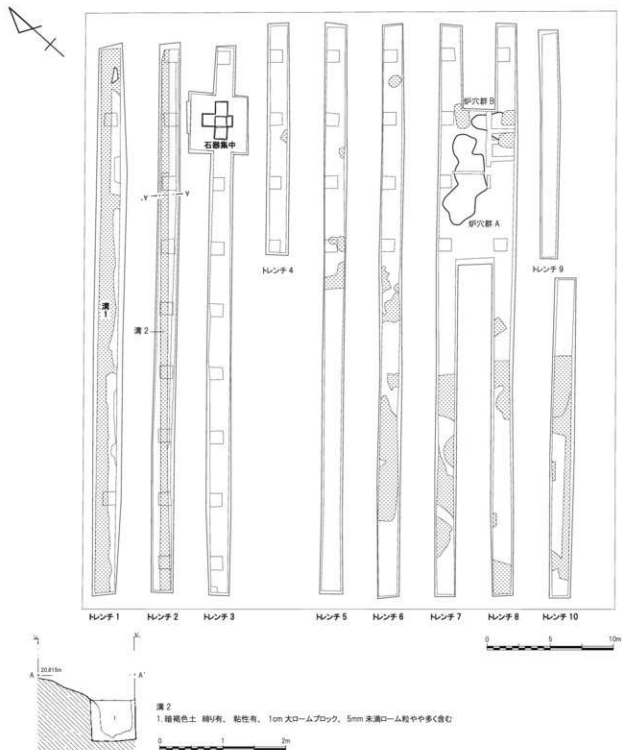
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ10本を設定し、



第3図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ岡 3-3-1・21	(1991.6.26~7.17)	5,710	体験学習観察場	遺構なし。縄文土器片、瓦	町内遺跡群 1
2	鶴ヶ岡 3-16-1・14	(2000.4.6~2000.5.16)	1,327	民住住宅	遺構なし。石石器、縄文土器片	町内遺跡群 A
3	鶴ヶ岡 3	(2005.1.7)	2,059	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 X B
4	鶴ヶ岡 3-18-1・12、23-3、26-6	(2005.5.12)	1,742	店舗	土坑、縄文土器片	市内遺跡群 2
5	鶴ヶ岡 3-1-1	(2013.6.25)	235.5	神社事務所	遺構なし。縄文土器片	市内遺跡群 18
6	鶴ヶ岡 3-18-23	(2015.5.15~27)2015.7.10~8.19	1,983.34	保育園	旧石器時代石器集中 1、縄文時代貯穴群 2	市内遺跡群 19
7	鶴ヶ岡 3-3-20・21	(2015.12.22~2016.1.29)	1,731.79	高齢者介護施設	土坑 1、船可り溝他 2、楓樹木 1	未報告



第4図 鶴ヶ岡遺跡第6地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)

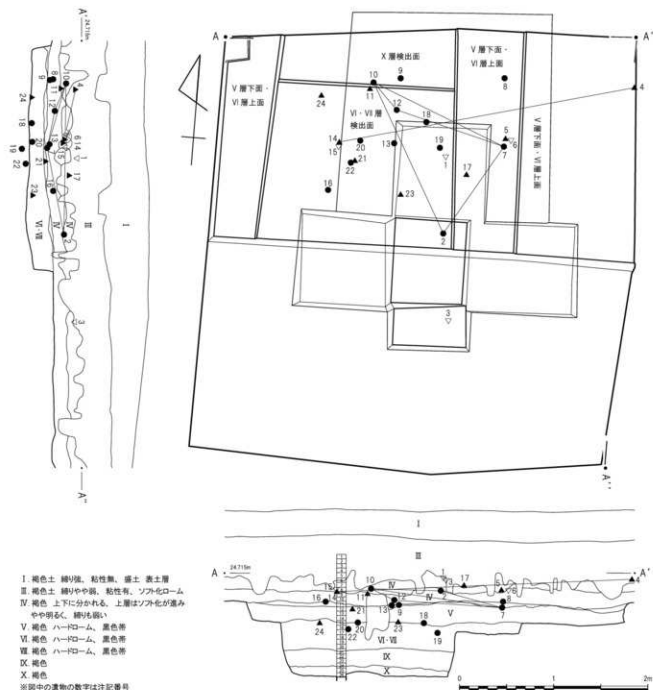
重機による表土除去後人力による調査を行った。人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ6・7で縄文時代の炉穴群を確認した。現地表面から地山ローム層(炉穴群)までの深さは約20cmであった。その後、旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、トレンチ1～8内に1×1mの小トレンチを4m間隔に設定した。トレンチ3の小トレンチで旧石器時代の遺物が出土した。現地表面から旧石器時代の遺物出土層までは約70cmの深さであった。

炉穴群の確認調査と旧石器時代の確認調査を行い、遺構の写真撮影・全測図作成等記録保存を行った。

原因者と再協議の結果、炉穴群については建物等による影響がないため保存措置とした。旧石器時代の遺構と遺物については、建物による影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、7月10日～8月19日までを行った。表土の除去には重機を用いたが、埋め戻しは人力で行った。遺物の実測には、調査区内に3×4mの長方形区画を設定、各杭にA～Dの名称を付した。

整理作業については有限会社アルケリサーチに業務委託を行った。



第5図 鶴ヶ岡遺跡第6地点旧石器遺物出土状況(1/40)

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 旧石器時代の遺構と遺物

① 石器集中遺物出土状況

【平面分布】

平面分布は長軸2m、短軸1.7mの楕円形の範囲に22点が散漫に分布し、ここから少し離れて(0.9m、1.3m)それぞれ1点ずつが出土している。Ob1とOb2は出土点数が少なく全体が散漫な分布を示していることもあり分布の特徴を見いだすことはできなかった。接合資料2個体は、注記番号2+7+10+12は散漫な分布の範囲内で4点が接合し、接合間距離は最大1.7m、最小0.4mである。注記番号4+14は1点が分布範囲外から出土しており、2点の接合間距離は3.2mである。

【垂直分布】

垂直分布は立川ロームⅣ層、Ⅴ層を中心としてⅢ層～Ⅵ・Ⅶ層上部にかけて分布していることが取看される。上下のレベル差は最大57.8cmをはかるが、Ob1とOb2の分布の違いは認められない点から両母岩とも同一の文化層として捉えられる。接合資料2個体は、注記番号2+7+10+12がⅣ層上部、Ⅳ層下部、Ⅴ層上部間の接合、注記番号4+14はⅢ層とⅣ層上部間の接合である。

② 母岩別分類

鶴ヶ岡遺跡第6地点から出土した石器石材はすべて黒曜石であり、以下のように母岩別分類を行った。Ob1: 茶色がかった黒色～灰黒色。淡灰色の不整縮状構造。透明度あり。球顆(φ<0.5mm)を含む。平滑な節理面が認められる。13点(6.94g)。Ob2: 茶色がかった黒色～灰黒色。淡灰色の不整縮状構造。透明度あり。球顆(φ<1mm)を含み、一部は層状をなす。粗い節理面が認められる。8点(29.65g)。

両者は色調や構造がよく似ている。球顆と節理面の違いにより区別したが、同母岩の部位による違いである可能性も否定できない。4点は小片のため分類しなかった。

③ 出土石器(第6図1～9)

出土石器はすべて黒曜石製の剥片である。

1は右側縁を欠損しており右側縁にガジリが認められる。末端は階段状剥離と判断したが、折れ面の可能性もある。背面は主要剥離面の剥離方向に対して90°、180°の剥離面で構成される。打面は節理面。打面と背面との縁辺には、両面上に剥離が連続し、縁辺は部分的に潰れている。主要剥離面の打点は明確で、打瘤の発達は弱い。打点径0.7mm、剥離角136°、

第3表 鶴ヶ岡遺跡第6地点出土石器観察表 (cm, g)

掲載番号	注記番号	石材	母岩	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考・注記番号
1	16	黒曜石	ob1	剥片	12.9	(14.6)	4.2	0.87	
2	7	黒曜石	ob1	剥片	(22.1)	(14.1)	5.5	0.95	注記No.10と接合する。
3	2+10-12	黒曜石	ob1	剥片	22.6	27.8	9.2	2.76	接合資料。
4	2+10-12+7	黒曜石	ob1	剥片	22.8	27.8	9.5	3.71	接合資料。
10		黒曜石	ob1	剥片	(22.0)	(12.7)	6.3	1.94	注記No.10と接合する。
2		黒曜石	ob1	剥片	18.5	(11.4)	4.6	0.71	注記No.7、2、12と接合する
12		黒曜石	ob1	剥片	(12.8)	(6.5)	1.6	0.1	注記No.12と接合する。
5	23	黒曜石	ob2	剥片	20	18.8	11.1	2.93	2点接合状態で計測した。実測厚は1点のみ。
6	5	黒曜石	ob2	剥片	24.2	(14.3)	7.8	2.15	
7	17	黒曜石	ob1	剥片	(22.7)	(21.5)	10.3	3.02	下端にガジリが認められる。
8+9	4+14	黒曜石	ob2	剥片	46.3	50.6	15.5	20.14	接合資料。
8	4	黒曜石	ob2	剥片	(22.0)	(27.4)	10.9	5.98	注記No.14と接合する。
9	14	黒曜石	ob2	剥片	(25.2)	(50.1)	15.5	14.16	注記No.4と接合する。
3		黒曜石	—	剥片	(4.2)	(5.8)	(0.8)	0.03	
6		黒曜石	—	剥片	—	—	—	0.05	小片4点。重量は合計
8		黒曜石	ob1	剥片	(21.3)	9.0	7.8	0.53	
9		黒曜石	ob1	剥片	10.1	(17.1)	(7.3)	0.71	打面にガジリが認められる。
11		黒曜石	ob2	剥片	14.8	7.5	6.9	0.57	
13		黒曜石	ob1	剥片	(5.1)	10.0	2.1	0.06	
15		黒曜石	—	剥片	7.4	6.4	(7.5)	0.14	一面はガジリ。
18		黒曜石	ob1	剥片	(7.0)	(14.3)	2.8	0.25	下端縁辺にガジリが認められる。
19		黒曜石	ob1	剥片	16.9	7.3	5.8	0.2	
20		黒曜石	ob1	剥片	(11.3)	(11.2)	5	0.32	
21		黒曜石	ob2	剥片	(13.3)	6.8	3.8	0.25	
22		黒曜石	ob1	剥片	(10.2)	16.8	(2.9)	0.3	
24		黒曜石	ob2	剥片	4.9	10.6	10.0	0.59	

()は欠損を示した。—は小片のため分類不能

打面角 62°。

2 は打面からの折れにより左半を欠損している。右側縁上端にガジリが認められる。末端に球顆からの折れが認められる。背面は主要剥離面と同方向の剥離面で構成される。打面は節理面。主要剥離面の打点は欠損している。打面下にはリップが発達し、打瘤の発達も認められる。3 と接合する。

3 は 3 点が折れ面で接合している。接合面は打面からと背面側の球顆からの折れ。左側縁 1/3 程度と末端の一部を欠損している。背面は主要剥離面の剥離方向に対して 90° の剥離面と打面からの剥離で構成される。打面は節理面で、端部にわずかに微細剥離と欠損が認められる。主要剥離面の打点は明瞭で打瘤も発達している。3 点のうち、注記番号 2 のみ表面の黒曜石本来の光沢が失われおり、他 2 点と色調が異なる。被熱の可能性ある。打点径 0.7 mm、剥離角 138°、打面角 82°。

4 は、2 と 3 の接合資料。

5 は末端を節理面からの折れで欠損している。本剥片の末端部が残置する 7 mm 大の小片が接合するが図示していない。背面は、主要剥離面と同方向および 270° の剥離面で構成されている。打面は節理面。主要剥離面の打点は不明瞭で、打瘤は発達しない。打点径 0.7 mm、剥離角 82°、打面角 74°。

6 は背面からの折れによって左半 1/3 を欠損している。末端の一部にガジリが認められる。背面は、主要剥離面と同方向の剥離面で構成される。末端辺はヒンジフラクチャーを呈する。打面は節理面。主要剥離面の打点は砕けて残置していない。打瘤は発達している。打面角 76°。

7 は右側約 1/2 を背面からの折れにより欠損しており、他にも球顆からの折れが認められる。下端にはガジリが認められる。背面と主要剥離面の下部に下方からの剥離面から両極剥片の可能性があるが、欠損部分が大きく判然としない。背面は主要剥離面と同方向および 180° の剥離面で構成される。打面は単剥離打面だが 1/2 程度しか残置していない。主要剥離面の打点は残置していないが、リングの強い収縮が認められる。

8 は 9 と接合する。

9 は 8 と接合する。

8 と 9 は底面があり下端が幅広になる横長の剥片。2 点が接合している。接合面は左半分が球顆を含む節

理面。右側縁の上部と左側縁を欠損している。右側縁と底面の一部にガジリが認められる。背面は主要剥離面に対して 180° の剥離面とわずかな打面からの剥離で構成される。右側縁側の底面からの剥離面は打点が残置している。底面は球顆を含む節理面で、右半には背面からの剥離が認められる。打面は単剥離打面だが、左側縁約 1/3 程度を欠損している。主要剥離面の打点は明瞭でコーンが認められる。打瘤は発達している。打点径 0.6 mm、剥離角 136°、打面角 124°。主要剥離面左側縁下部にわずかに剥離が認められる。上半部の注記番号 4 は、下部同 14 にくらべ黒曜石本来の光沢が失われており色調が異なる。被熱の可能性がある。

※注 背面構成の表現では、主要剥離面の剥離方向に対して反方向を 180°、左側縁→右側縁方向 90° を、右側縁→左側縁方向を 270° とした。

(2) 縄文時代の遺構と遺物

① 炉穴群

縄文時代早期の炉穴群の広がりや 2ヶ所を確認した。調査区の東部、トレンチ 7・8 に位置する。

2ヶ所のうち南側を炉穴群 A、北側を炉穴群 B とした。各炉穴群にサブトレンチを設定し掘り下げた結果、西側の炉穴群 A で 2ヶ所、東側の炉穴群 B で 7ヶ所の焼土面を確認した。

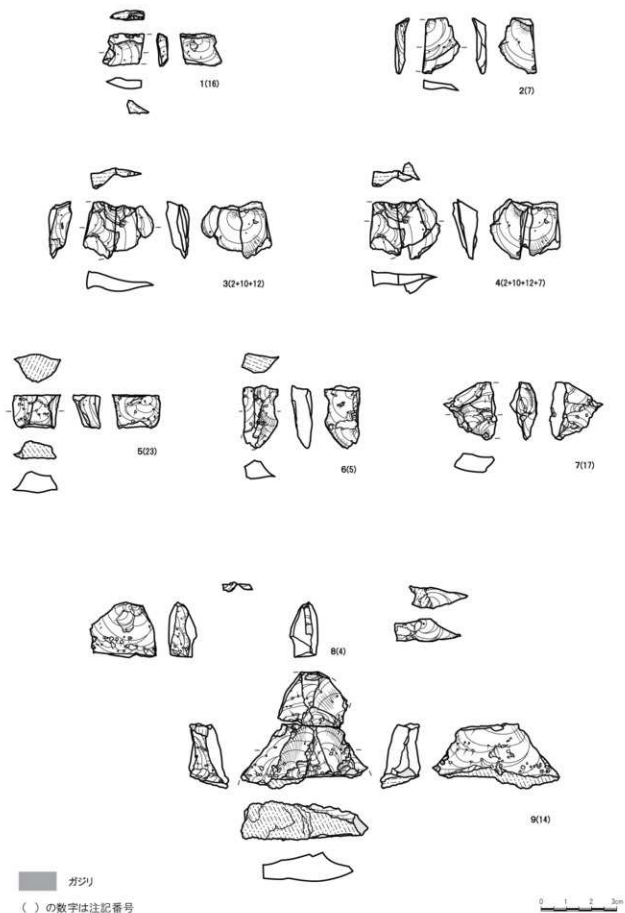
炉穴群 A の平面形態は不整形で、規模は東西 710 cm × 南北 238 cm、深さ 40 cm である。炉穴群 B の平面形態は不明で、規模は東西 220 cm × 南北 (344) cm、深さ 40 cm である。

各焼土面の規模は第 4 表を参照。

② 出土遺物 (第 7 図 1～5)

1 は炉穴群出土の縄文時代早期の土器で、胎土に繊維を含む。口縁部で、外面には条痕文を施す。

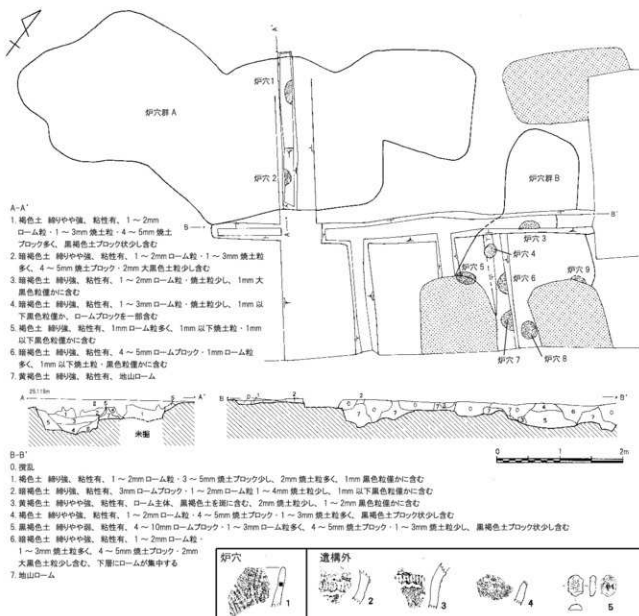
2～5 は遺構外出土遺物である。2 は隆帯に角押文を施し、さらに内側に波状沈線文を巡らす。3 も角押文を施し胎に波状沈線文を巡らす。2、3 は縄文時代中期勝坂Ⅱ式 (藤内式) である。4 は無文の縄文土器で、時期は中期か。5 は土製品のドロメンチである。形抜成形でモチーフは亀、色調は橙色、裏面に指頭痕有、重さ 2.12 g である。



第6図 鶴ヶ岡遺跡第6地点石器集中出土遺物 (2/3)

第4表 鶴ヶ岡遺跡第6地点炉穴一覧表 (単位 cm)

炉穴群	No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
炉穴群 A	1	不明	(37 × 11)	—	25
	2	不明	(27 × 11)	—	48.9
炉穴群 B	3	不明	(33 × 12)	—	44.8
	4	楕円形	22 × 18	—	20.2
	5	楕円形	32 × 19	—	10.6
	6	不明	(34 × 15)	—	9.8
	7	不明	(34 × 18)	—	11.1
	8	楕円形	27 × 23	—	0.4
	9	不明	(25 × 17)	—	—



第7図 鶴ヶ岡遺跡第6地点炉穴群 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第3章 北野遺跡第33地点の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

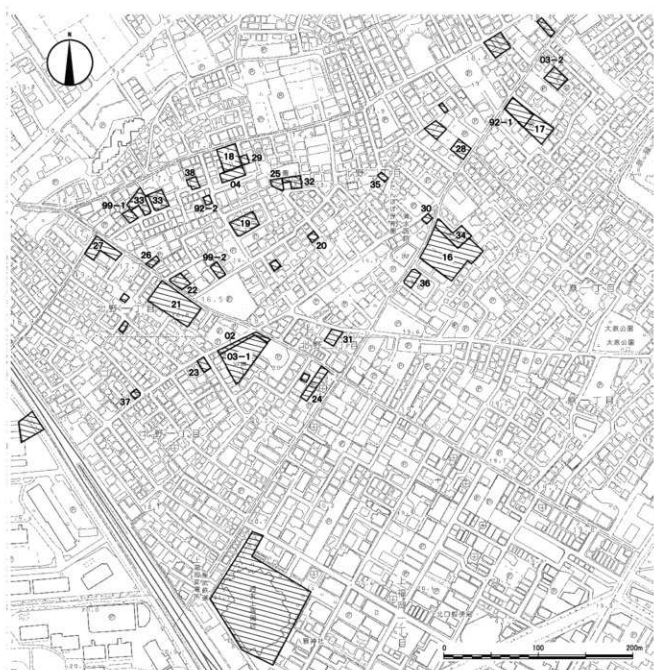
周辺の遺跡は、1km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以來38ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より



第8図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

2015年9月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は、遺跡範囲の北西部の崖面に近い台地上に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年12月1日～8日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1～1.5mのトレンチ8本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ7で縄文時代の集石土坑を確認した。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmであった。遺構の写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻しを行った。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、集石土坑については建物による影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、遺構の確認された部分を拡張し12月15日～21日まで行った。表土の除去には重機を用いた。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

Ⅲ 遺構と遺物

本調査では縄文時代の集石土坑5基を検出した。遺物は、集石土坑より14点が出土したが、2点を掲載した。

【集石土坑】 集石土坑は調査区の北東部で、台地縁辺部に近い部分に広がる。5基の集石土坑は、南北方向に直線的に延びる。出土遺物から、縄文時代に属するものとみられる。

集石土坑から出土する礫は集石土坑1が最も多く次いで集石土坑2と集石土坑3である。集石土坑4と5

第5表 北野遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (※試掘調査)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	北野 2-2110-1の一部、2112-1	(2006.4.7)	408(44)	分譲住宅	遺構遺物なし	市3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131	個人住宅	遺構遺物なし	18 教養、市3
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148	個人住宅	保薄層有。遺構遺物なし	市3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58	個人住宅	遺構遺物なし	18 教養
02-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19～22)	617	駐車場	溝2、縄文時代中期土器片、土師器片	埋15
02-2	北野 2-1809-1	(1992.6.6)	138	個人住宅	遺構遺物なし	埋15
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4	個人住宅	遺構なし	埋22
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9～12)	179.1	個人住宅	遺構なし	埋22
02	北野 1-3058-1、3114-1の一部	(2002.11.28～29)	100	公園歩道	遺構遺物なし	埋25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1の一部	(2003.7.1～11)	1,484	公園	遺構遺物なし	埋26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8～11)	350	宅地造成	土坑1、縄文土器片	埋26
04	北野 2-1827-1～3	(2 004.4.16～19)	435	共同住宅	遺構遺物なし	埋27
05	北野 1-3129-3・20	(2005.12.2)	101	個人住宅	遺構遺物なし	17 教養
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8～10)	296(1,888)	宅地造成	ビッド3、中期前遺土器・石器	市8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13～17)	122.5(412)	共同住宅	土坑2、阿玉台石土器	市8
18	北野 2-1828-2・12、1829-1・2	(2009.3.9～18)	178(507.9)	分譲住宅	縄文住居跡(1(1)住)、奈良平住居跡(H1住)、土坑3、ビッド8	市8
19	北野 2-1821-1・2、1820-4	(2010.12.1～2)	476.3	共同住宅	ビッド2、遺物なし	市10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3(4)	個人住宅	遺構遺物なし	市14
21	北野 1-3117-33118-1	(2011.12.8～20)	830	分譲住宅	加路1、縄文土器片、焼物	市14
22	北野 2-1788-8の一部	(2012.2.6～8)	48(207.1)	分譲住宅	遺構なし、須恵器片	市14
23	北野 1-3111-4(1-4・9)	(2012.8.28)	140.8	個人住宅	遺構遺物なし	市15
24	北野 1-3063-1	(2012.9.13・14)	335	分譲住宅	土坑1、紐きり溝1、縄文土器片	市15
25	北野 2-1833-3(2-6・6)	(2012.12.10)	142.7	分譲住宅	遺構遺物なし	市15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	分譲住宅	遺構遺物なし	市15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27・28)	100.6	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27・28)	101.4	個人住宅	縄文時代集石土坑1、遺物なし	未報告
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14・15)	83.7	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30・11.5)	75.9	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	分譲住宅	遺構なし	未報告
32	北野 2-1841-7他	(2015.8.27)	209	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
33	北野 2-1801-3・4・42・43	(2015.12.1～8)12.15～21	627.60	分譲住宅	集石土坑5、縄文土器片	市19
34	大原 -2073-1	(2015.12.7・8)	276.13	共同住宅	ビッド1、遺物なし	未報告
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
36	大原 1-2058-10・11の各一部	(2016.2.16)	212	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
38	北野 2-1807-6・7・8、1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	個人住宅	遺構なし	未報告

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、土遺：上福岡市遺跡調査会報告書、教養：上福岡市・ふじみ野市教育委員会、市3：ふじみ野市内遺跡群報告書

は礫の出土がやや少ない。

集石土坑1～5の平面形態は円形もしくは楕円形である。集石土坑の詳細及び出土礫については、第6表を参照。

【出土遺物】(第11図1～6) 集石土坑からは14点の土器片が出土した。1～4は集石土坑1出土。1は口縁部片で、口唇部に押圧を施す。外面は口唇部直下に半截竹管状工具で横位に施文する。

2は集石土坑1から出土した縄文土器片である。無文で内外面に撫でを施す、胎土に微細な金雲母を僅か

に含む。1、2は縄文時代。

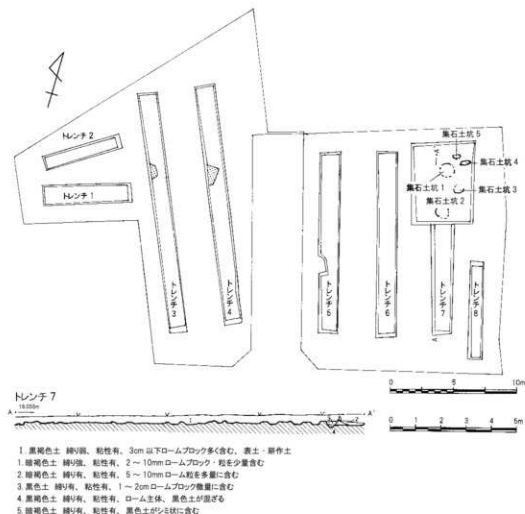
3・4は砂岩の石製品で表面上部に帯状の窪みを巡らす。重さは3が112.52g、4は55.96gである。

5と6は遺構外出土である。

5は縄文土器片で沈線文を施し、沈線間は磨り消す。縄文時代中期末から後期。6は須恵器の甕で胎土に1mm大の白色粒をやや多く含む。内外面は灰色で中は黄褐色のサンドイッチ状を呈する。外面には横位に微隆帯を巡らせ、その横に1単位6本以上の波状文を巡らせる。

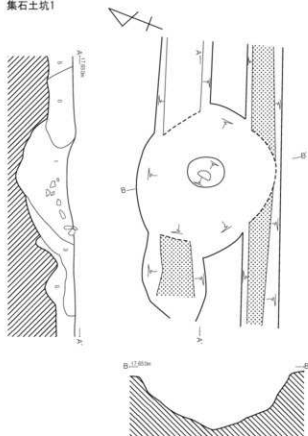
第6表 北野遺跡第33地点集石土坑・出土礫観察表(単位cm・g)

坑	平面形態	集石面積	縦径	深さ	総点数	総重量	平均重量	礫個数	定形数	塊状数	未定形数	3～6・埋付前数	3～6・埋付後数	備考
1	楕円形	122×112	11×0	45.3	623	48,529.36	77.90	344(55.22%)	279(44.78%)	276(44.30%)	347(55.70%)	319(50.50%)	308(49.44%)	
2	円形	76×65	(25)×20	26.5	385	26,927.76	69.94	314(81.56%)	71(18.44%)	172(44.68%)	213(55.32%)	174(45.19%)	211(54.81%)	
3	楕円形	94×80	35×34	30.4	233	11,489.65	36.60	144(70.4%)	59(29.08%)	159(78.23%)	44(21.67%)	67(33.09%)	136(67.00%)	
4	(円)	89×42	(27)×24	15.7	47	3,059.11	65.94	40(85.1%)	7(14.89%)	30(63.83%)	17(36.17%)	18(38.30%)	29(61.70%)	
5	(楕円)	65×47	28×27	14.0	10	454.16	45.42	10(100%)	0(0%)	5(50%)	5(50%)	3(30%)	7(70%)	

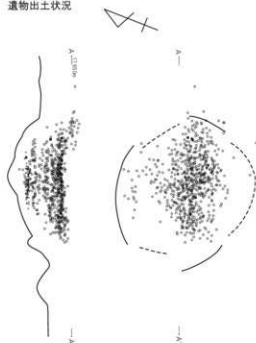


第9図 北野遺跡第33地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

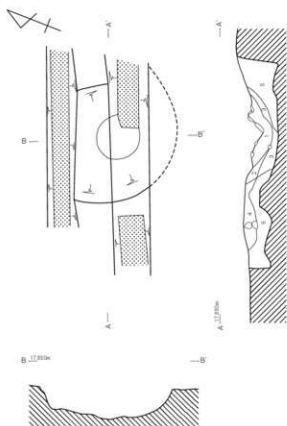
集石土坑1



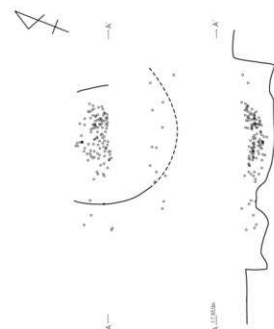
遺物出土状況



集石土坑2



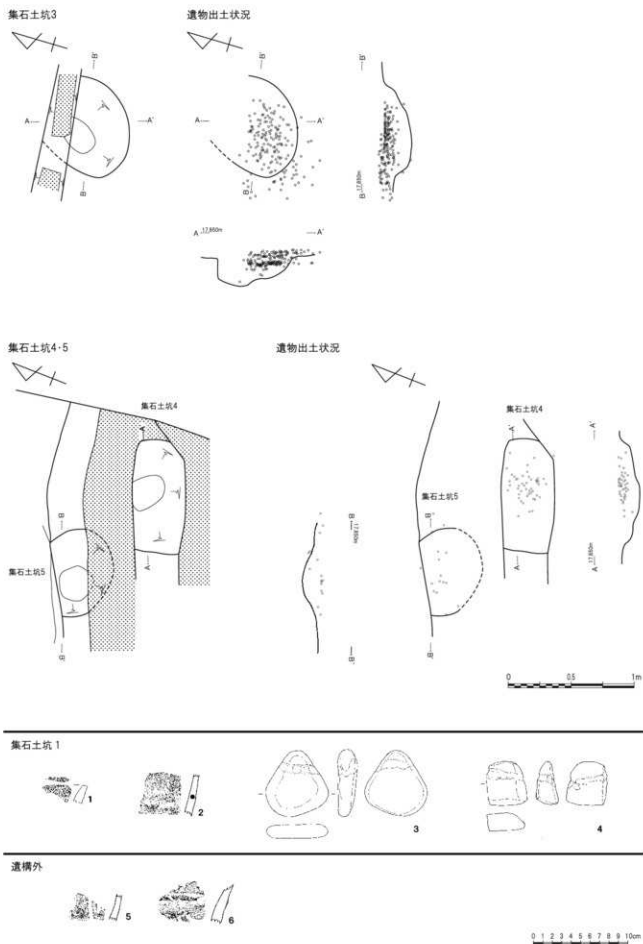
遺物出土状況



1. 緑褐色土 粘り強、粘性有、2～10mmロームブロック・粒も少量含む
2. 緑褐色土 粘り有、粘性有、5～10mmローム粒多量を含む
3. 黒色土 粘り有、粘性有、1～2cmロームブロック少量を含む
4. 黒色土 粘り有、粘性有、ローム主体、黒色が濃ざる
5. 緑褐色土 粘り有、粘性有、黒色が少し濃ざる

0 0.5 1m

第10図 北野遺跡第33地点集石土坑1・2 (1/30)



第11図 北野遺跡第33地点集石土坑3～5 (1/30)、出土遺物 (1/4)

第4章 川崎遺跡第44地点の調査

I 遺跡の立地と環境

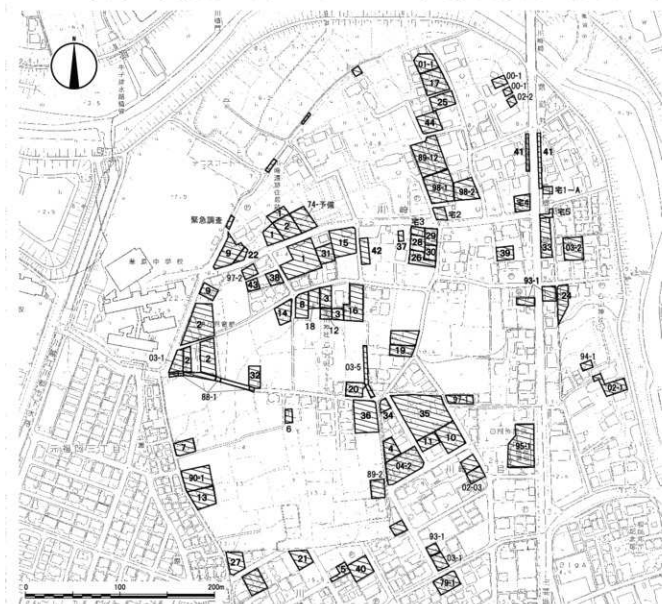
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2016年7月末現在44ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。

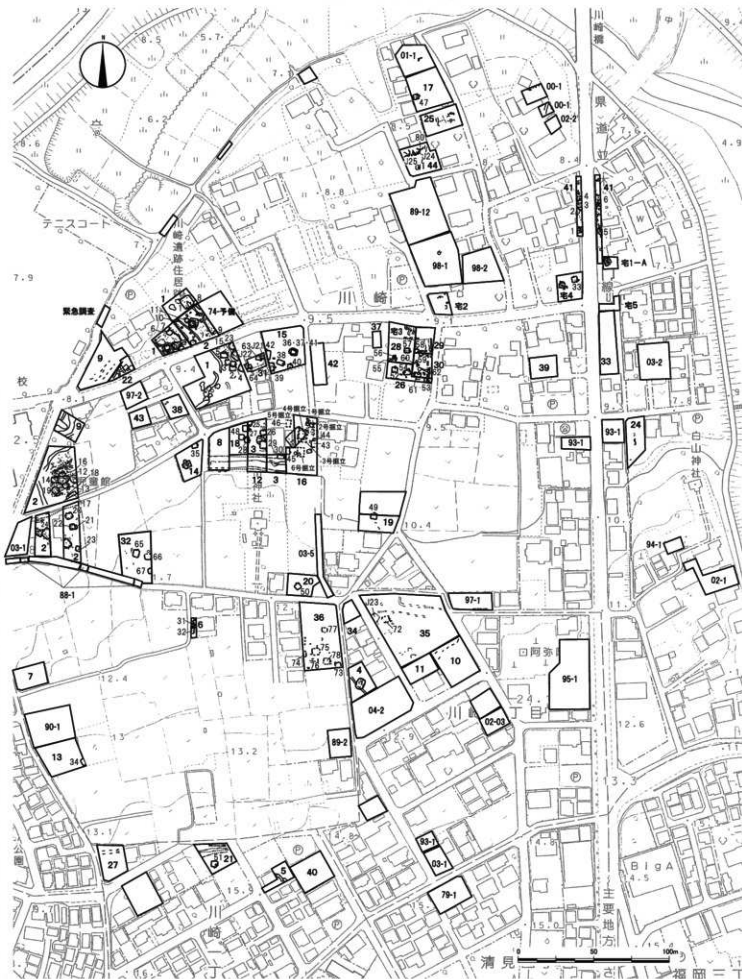


第12図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第7表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (月/日調査済)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所在調査者
予備調査	川崎160	(1974.3.25～4.4)	84	事前調査	伊7-3、土坑2、ビツボ等、縄文土器、石皿	土器部
1次	川崎162～176	1974.7.20～9.19	1,800	事前調査	住跡群11(縄文時代前期3、古墳時代前期1、国分刀、溝3)、竈2、土坑5、地下式石倉、竈1	川崎遺跡第1次調査(土器部)
調査対象遺構	大子川宇賀集 168-3	1975.3.30～5.10	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石皿、平安時代前期-室町前期-徳川初期-武蔵	土器部
宅地跡1次(A地区)	大子川宇賀宅跡 122	1975.6.8～20	50	個人住宅	縄文時代前期1住跡1、縄文土器	土器部
2次	川崎137～174	1975.8.4～12.5	3,055	事前調査	縄文時代住跡群8、古墳時代住跡群6、奈良平安時代住跡群10、中世土器遺構	川崎遺跡第2次調査(土器部)
3次	川崎149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅建設	縄文時代住跡群217-8、奈良平安時代住跡群6(1+2+6+9)、土坑1、柱石、溝	川崎遺跡(第3次調査)
宅地跡2次(B地区)	川崎198	1978.5.15～25	170	宅地造成	土坑3、ビツボ	埋(1)
宅地跡3次(C地区)	川崎230	1978.5.23～31	130	宅地造成	伊7-2、地下坑1、溝1	埋(1)
4次	川崎2-3	1978.4.19～5.11	304	宅地造成	縄文時代前期1住跡1、溝1、築石式土坑、竈	埋(1)(伊)
5次	川崎1-4	1978.9.26～10.10	152	宅地造成	溝1遺構	埋(1)
79年度試掘(調査)	遺見4-3(1)	(1979.11.12～10)	260	宅地造成	溝1	埋(1)
6次	川崎102-5	1978.12.3～8	300	住宅建設	縄文時代前期1住跡2、平安時代住跡2、縄文土器	埋(1)
7次	川崎124-3	1981.11.27～30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器	埋(伊)
8次	大子川宇賀集 148-1	1984.11.17～26	400	住宅建設	溝1	埋(伊)
宅地跡4次	川崎宅地跡 219	1984.9.25～10.9	301	住宅建設	縄文時代住跡1、平安時代住跡1	埋(伊)
9次	川崎宇賀集1172-1-2	1986.9.11～20	495	個人住宅	溝2、竈1、石皿、平安時代土器類	埋(伊)
10次	川崎224	1987.11.24～30	203	個人住宅	溝1	埋(伊)
11次	川崎2-6	1988.5.10～17	609	住宅建設	遺構物なし	埋(伊)
12次	香取402号棟	(1988.10～21)	602	下水道工事	住跡群1+敷土埋藏跡1、中世土器遺構2	埋(1)(伊)
89試(1)	川崎宇賀集 196-1	(1989.4.10～18)	1,045	住宅建設	遺構物なし	埋(1)(伊)
89試(2)	川崎宇賀集 98-2	(1989.10.3～6)	254	住宅建設	遺構物なし	埋(1)(伊)
12次	川崎宇賀集149-4-5	1990.4.20～27	311	住宅建設	溝2	埋(1)(伊)
13次	大子川宇賀集 122	1990.5.1～17	480	住宅建設	奈良時代住跡群1	埋(1)(伊)
90試(1)	大子川宇賀集 122	(1990.5.18～23)	530	竈跡確認	遺構物なし	埋(1)(伊)
14次	大子川宇賀集 143	1990.10.1～31	499	住宅建設	縄文時代前期1住跡群1、住居、平安時代住跡群1	埋(1)(伊)
15次	川崎宇賀集1160-1	1991.10.23～11.20	499	個人住宅	平安時代住跡群7、土坑1	埋(1)(伊)
92試(1)	大子川宇賀山9-5	(1993.2.18～18)	168	店舗新築住宅	遺構物なし	埋(1)(伊)
93試(1)	川崎2-2-10-11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構物なし	埋(伊)
93試(2)	川崎1-1-1の一帯	(1993.9.10～13)	422	個人住宅	遺構物なし	埋(伊)
94試(1)	川崎宇賀258集1集	(1994.11.17～24)	230	樹材採取施設	遺構物なし	埋(伊)
95試(1)	川崎2-2-3	(1995.10.13～16)	1,126	埋蔵	遺構物なし	埋(伊)
16次	川崎宇賀集 150-2-3	1995.12.11～1996.3.8	828	駅前地区改修計画	縄文時代住跡群(築石式土坑)大型土器1、住居住跡群2+土坑2、平安時代住跡群1+敷土埋藏跡1、中世土器遺構2	埋(伊)7年調査
17次	川崎宇賀集 204の一帯	1996.7.15～23	779	個人住宅	平安時代住跡群1	埋(伊)
18次	川崎宇賀集 148-3	1996.11.18～25	198	個人住宅	平安時代住跡群1	埋(伊)
97試(1)	川崎山前21	(1997.4.14)	307	宅地造成	溝1(前期1層)	埋(20)
97試(2)	川崎宇賀集1165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構物なし	埋(20)
97試(3)	川崎宇賀集 199-1+2-5	(1998.2.12～16)	780	個人住宅	9年調査	埋(20)
98試(1)	川崎宇賀集 197-1	(1998.10.27～11.6)	996	宅地造成	縄文時代前期土坑1他	埋(21)
併設402号棟2次	川崎宇賀集 河原町内	2000.2.21～25	496	道路	縄文時代前期1住跡群1	11年調査
99試(1)	川崎大子川集 209の一帯	(2000.6.19～22)	123	個人住宅	住跡1層	埋(22)
99試(2)	川崎宇賀集 209	(2001.6.12～25)	100	倉庫	遺構物なし	埋(21)
19次	川崎宇賀集 157の一帯	2001.9.18～10.4	289	個人住宅	平安時代前期1住跡群1	埋(24)
01試(1)	川崎宇賀集 204-1	(2001.10.26～30)	475	宅地造成	遺構物なし	埋(24)
02試(1)	川崎 249-1の一帯	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構物なし	埋(25)
02試(2)	川崎 210-1、2の一帯	(2002.10.28～29)	551	共同住宅	溝1【盛土存在】	埋(25)
02試(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構物なし	14年調査
02試(4)	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構物なし	14年調査
02試(5)	川崎宇賀集 155 集	(2003.3.26)	164	市道401号線	遺構物なし	14年調査
03試(1)	川崎 137-4の一帯	(2003.8.6-7)	257	個人住宅	遺構物なし	埋(26)
03試(2)	川崎宇賀集 226-14	(2003.12.8～19)	381	個人住宅	遺構物なし	埋(26)
宅地跡地区5次	川崎宇賀集 223-3 集	2004.2.16～18	88	個人住宅	古墳時代前期1住跡群1【調査実施】	15年調査
04試(1)	川崎宇賀集 157-1の一帯	(2004.6.14～15)	421	個人住宅	平安時代住跡群4+伊7-9	埋(27)
04試(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.1～4)	801	宅地造成	遺構物なし	埋(27)
20次	川崎宇賀集 153-5	(2005.11.22～27/2005.11.28～12.2)	257	個人住宅	古墳時代住跡群1	伊内1
21	川崎 1-6-10	(2005.11.2006.4.18～20)	290	個人住宅	奈良時代住跡群1、溝	伊内2
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16～23)	104	掘削防砂溝	伊7-4、地下式石倉2、穴蔵1、土坑2	伊内4
24	川崎宇賀集 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構物なし	伊内4
25	川崎宇賀集 203-1の一帯、203-3の一帯	(2008.4.14/2008.4.15～17)	1,033	個人住宅	奈良時代築石住跡群1、溝、奈良時代の地下室1	伊内6
26	川崎宇賀集 230-5	(2008.4.21/2008.4.22～5.17)	228	個人住宅	奈良平安時代住跡群 4、土坑、ビツボ、近代以前の伊7-1	伊内6
27	川崎1-7-1	(2008.5.15～21)	350	分譲地	時期不明の溝1、土坑1	伊内6
28	川崎宇賀集 230-7	(2008.7.9～9/2008.7.10～8.22)	434	個人住宅	奈良平安時代住跡群2、土坑、ビツボ	伊内6
29	川崎宇賀集 230-1	(2008.7.9～11/2008.7.14～8.22)	203	個人住宅	奈良平安時代住跡群2、溝3	伊内6
30	川崎宇賀集 230-6	(2008.7.17/2008.7.18～9.5)	290	個人住宅	奈良平安時代住跡群 4、伊7-3、土坑、溝3	伊内6
31	川崎宇賀集 161-5の一帯、161-6	(2008.10.26/2009.10.28～11.27)	304	個人住宅	縄文時代中期-後期1住跡群2、奈良平安時代住跡群、ビツボ12	伊内8
32	川崎宇賀集 149-0の一帯	2011.12.24～25/2011.3.2～25	396	個人住宅	奈良平安時代住跡群 3、土坑2、建物の本基礎	伊内10
34	川崎 2-3-4	(2011.7.25-28)	118	分譲住宅	遺構物なし	伊内14
35	川崎 2-6-4～7-9	(2011.9.27～11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(築石式)住跡群1、奈良平安時代住跡群1他	伊内14
36	川崎宇賀集 100-1	(2011.12.15～26/2011.20.1～2011.21.17)	1,096	公園整備	奈良平安時代住跡群 6他	伊内14
37	川崎宇賀集 232-1	(2012.29.3)	1,298	個人住宅	住跡群1、遺構なし	伊内15
38	川崎宇賀集 163-3	(2013.2.25/2013.2.26～27)	179	個人住宅	縄文時代第2-2年田舎跡ビツボ3	伊内15
39	川崎宇賀集 227-1	(2013.3.8～9)	1,121	個人住宅	遺構物なし、縄文土器、土器類、土器類、包括	伊内18
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11～17)	447	共同住宅	遺構物なし、陶器	伊内18
41	川崎山前 104-0の一帯	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構物なし	土坑5
42	川崎宅地跡 233-3	(2015.6.26～7.2)	300	川崎総合商	平安時代住跡群1、住居跡、土器類	土坑5
43	川崎宇賀集 165-5+8-9	(2015.6.26)	175	個人住宅	遺構物なし	土坑5
44	川崎宇賀集 202-1+8	(2015.11.24～12.10/2016.1.5～20)	274	分譲住宅	縄文時代住跡群2、奈良平安時代住跡群1、住居1、地下式石倉1、土坑5、ビツボ7、溝1、縄文土器、石皿、石製土器、土器類	伊内19

※1：土曜朝刊教育委員会文化遺産の調査報告書、土器部；土曜朝刊調査報告書、教育；土曜朝刊教育報告書、案内；5～6号朝刊中世前期調査報告書



第13図 川崎遺跡の遺構分布図 (1/2,500)

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年10月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

試掘調査は11月24日～12月10日まで行い、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行ったところ、縄文時代の住居跡、古代の住居跡、地下式坑等を確認した。地表面から遺構確認までの深さは約40cmで遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、遺跡に影響が生じる範囲において原因者負担による本調査を実施した。他の部分については盛土を行うため、30cm以上の保護層が確保できることから工事立会いの措置とした。

本調査は2016年1月5日～1月20日まで行い、試掘調査及び本調査で縄文時代前期の住居跡2軒、古代の住居跡1軒、地下式坑1基、中近世の貝塚1基、土坑3基、ピット7基、溝1条を検出し、縄文土器、須恵器等が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。なお、埋戻しに係る重機とオペレーターについては土地所有者である千代田ホーム株式会社の提供と協力を得た。

III 遺構と遺物

縄文時代の住居跡は2軒検出した。各住居跡については以下のとおりである。

① J24号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区北側中央に位置し、H80号住居跡と重複する。北側は調査区外のため未検出である。また、一部保存措置となったため、住居跡の大部分が遺物の取り上げとプランの確認で終了した。出土遺物から縄文時代前期の黒浜期であると考えられる。

【形状・規模】遺構確認面で既に床面近くまで削平されていたため、明確に平面プランが確認できなかった。本調査の対象となった部分が住居跡の南東部の僅かな範囲のみであったので、全容は不明であるが、本調査実施部分で住居の周溝と考えられる溝を確認した。試掘調査で確認した平面プランと合わせると、円形から方形に近い住居であった可能性が考えられる。また、遺物出土状況を踏まえると、住居の拡張が行われた可能性もある。柱穴と考えられるピット群や遺構確認面においても焼土を含む部分もあるが、いずれも未調査である。

【遺物出土状況】今回確認ができた範囲の中央部分に、床上5～10cmの高さで多数の遺物が集中する。ほとんどの遺物が破片である。

第8表 川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 (1は推定)	規模	跡			位置	向き	主軸方位	時期	備考	文献
						地味	伊勢	石川						
1974	第1次LN3	2/3	方形	420×380						N-16° E	縄文前期	第1次調査概観		
	第1次LN19	2/3	長方形	- × 550				4	○	N-42° E	〃	〃		
	第1次LN20	2/3	長方形	560×420						N-59° E	〃	〃		
	第2次LN8	1/2	楕円長方形	- × 570						N-88° E	縄文前期(黒山期)	第2次調査概観		
	第2次LN34		不整形	520×480							縄文前期(黒山期)	LN6・35と複合	〃	
	第2次LN25	大部分	長方形	- × 450						N-68° W	縄文前期(黒山期)	LN21と複合	〃	
	第2次LN50	1/2以上	長方形	620×460	○					N-35° W	縄文前期(黒山期)	〃	〃	
	第2次LN70	1/2	楕円長方形	- × 330							縄文前期(黒山期)	〃	〃	
	第2次LN73		楕円長方形	350×260	○					N-6° W	縄文前期(黒山期)	LN73・77・74・76の順で構築	〃	
	第2次LN74		楕円長方形	820×810	○						縄文前期	〃	〃	
	第2次LN76		不整形	390×290	○					N-10° E	縄文前期	〃	〃	
	第2次LN77		楕円長方形	?	○						縄文前期	〃	〃	
1977	第3次J7		不明								縄文前期(花壇下層期)	第3次発掘調査報告書		
	第3次J8										縄文前期(花壇下層期)	〃		
1979	第4次1号住居	完掘	楕円長方形	645×505							縄文前期(黒山期)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)(V)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
	第4次1A									○		埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
	第4次1B											埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
	第4次1C											埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	埋蔵文化財の調査(Ⅱ)	
1983	宅地第2号住居	完掘	楕円形	径3m～4m						○	加賀利	埋蔵文化財の調査(VI)	埋蔵文化財の調査(13)	
1990	第14次1号住居	完掘									縄文前期(黒山期)	以摩	埋蔵文化財の調査(13)	
1995	第16次7号住居										伊勢のみ	縄文前期(黒山期)	埋文(18)、説明会資料「私たちの埋蔵文化財」	
	第16次3号住居										伊勢のみ	縄文前期(黒山期)	〃	
	第16次4号住居	完掘	長方形	1200×800							縄文前期(黒山期)	大形住居	〃	
21	2009	第31地点J21号住居	75%	楕円形	(500)×420					○	和名寺1	市内遺跡第8		
22		第31地点J22号住居	25%								加賀利EIV	市内遺跡第8		
23	2011	第35地点J23号住居	未検出	方形長方形	520×-						縄文前期(黒山期)	市内遺跡第14		
24	2015	第44地点J24号住居	一部分	円形	小方形					○	縄文前期(黒山期)	880号住居跡と重複	市内遺跡第19	
25	2015	第44地点J25号住居	一部分	円形	楕円形	(330×300)					縄文前期(黒山期)	地下式坑と重複	市内遺跡第19	

第9表 川崎遺跡古土住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 (3点測定)	面積	伊 字/FK	設置 位置	カマド		土軸方位	時期	備考	文献
								規模	開口				
1	1974	第1次LN72	完壁	楕円方形	760 × 730 × 40	伊	地床付	60 × 50	○	N-60E	3世紀前半	市指定文化財	川崎遺跡第1次概観
2	1974	第1次LN65	完壁	方形	290 × 320 × 30	K	北		○	N-5E	国分	〃	〃
3	1974	第1次LN66	完壁	歪な正方形	320 × 320 × 30	K	北		○	N-13W	9C 4半期	〃	〃
4	1974	第1次LN67	完壁	方形	320 × 320 × 30	K	東	80 × 90	○	N-83W	9C 中葉	〃	〃
5	1974	第1次LN24	完壁	長方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5E	10C 1半期	〃	〃
6	1974	第1次LN25	完壁	方形	320 × 300 × 30	K	北	40 × 40	○	N-42E	9C 1半期	〃	〃
7	1974	第1次LN28	西側未壁	(長方形)	× 300	K	東	50 × 60	○	N-69W	9C 3半期	〃	〃
8	1974	第1次LN71	東側7割未壁	(方形)	× 600								
9	1975	第2次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次概観
10	1975	第2次LN92	部分	(長方形)							10C 1半期		〃
11	1975	第2次LN72	完壁	楕円方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80	○	N-18E	国分	〃	〃
12	1975	第2次LN07	完壁	方形	720 × 720	K	北		○	N-32E	6C 後半	ビッド多数 土葺い	〃
13	1975	第2次LN04	完壁	方形	290 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64E	6C 前半	町指定古有	〃
14	1975	第2次LN05	完壁	長方形	450 × 370	K	北	100 × 80	○	N-1E	10C 2半期	〃	〃
15	1975	第2次LN19	14住に付られる								9C 4半期	支障があったまま	〃
16	1975	第2次LN14	完壁	長方形	370 × 260	K	北	90 × 80	○	N-4E	9C 3半期	〃	〃
17	1975	第2次LN12	南側未壁	長方形	700 ×						6C	初建	〃
18	1975	第2次LN33	17住と大きく重なり全体不明										〃
19	1975	第2次LN06	完壁	楕円方形	410 × 420	K	北		○	N-45E	6C 後半	良好	〃
20	1975	第2次LN22	完壁	長方形	410 × 330	K	東	120 × 120	○	N-29W	〃	〃	〃
21	1975	第2次LN53	完壁	長方形	350 × 280	K	北	70 × 60	○	N-87E	10C 2半期	22住を切る	〃
22	1975	第2次LN34	部分	(方形)	330 × 330	伊	地床付				5C		〃
23	1975	第2次LN20	3/5	(方形)	× 350	K	北		○	N-23E	9C 2半期	竝行1房跡	〃
24	1975	第2次LN21	ほぼ完壁	正方形	580	K	北西	50 × 70	○	N-43W	6C		〃
25	1977	第3次1号住居	南側のみ	(長方形)		K	東	建中で破壊されたもの	○				川崎遺跡第3次
26	1977	第3次2号住居	完壁	長方形	350 × 330	K	北	× 70	○		国分	鉄製土器多い	〃
27	1977	第3次4号住居	(完壁)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○		国分	〃	〃と埋文調査19
28	1977	第3次3号住居	(完壁)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○		国分	〃	〃と埋文調査19
29	1977	第3次6号住居	4/5	正方形	440 ×						9C 4半期	焼失家屋	〃
30	1977	第3次9号住居	1/2	(方形)	415 ×						国分		〃
31	1979	第6次1号住居			340 ×						9C 2半期		埋文文化財の調査Ⅱ
32	1979	第6次2号住居	1/3		340 ×	K	北→東	140 × 80	○		9C 1半期	鉄製土器多い	〃
33	1984	南地帯第4次3住	完壁	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○		8C 3半期		埋文文化財の調査Ⅲ
34	1990	第13次1号住居	1/2 ~ 1/3		390 ×	K	東		○		7C 後半		埋文文化財の調査13
35	1990	第14次2号住居	南1/2		340 ×	K	東		○		9C 1半期		〃
36	1991	第15次1号住居			295 × 285	K	北東		○		9C ~ 10C		埋文文化財の調査14
37	1991	第15次2号住居		正方形	380 × 380	K	東		○		9C 中葉		〃
38	1991	第15次3号住居	完壁	長方形	265 × 420	K	南東		○		9C 前半		〃
39	1991	第15次4号住居	1/2	正方形	580 ×				○		9C末 ~ 9C初		〃
40	1991	第15次5号住居	3/4		280 ×				○		9C前半 ~ 中		〃
41	1991	第15次6号住居		正方形	425 × 270	K	北		○		8C 後半	35.56 住と重なり	〃
42	1991	第15次7号住居	1/2	正方形	570 ×	K	北		○		9C 前半	鉄軸陶器, 焼失家屋	〃
43	1991	第16次1号住居	1/2		450 ×				○		9C前半 ~ 後半		本報告
44	1994	第16次2号住居	北西のみ						○		9C前半 ~ 後半		〃
45	1994	第16次5号住居	2/3		480 ×	K	東		○		9C前半 ~ 後半		〃
46	1994	第16次6号住居	カマドのみ						○		9C前半 ~ 後半		〃
47	1994	第16次1号竪立	2/3	長方形							9C前半 ~ 後半	42住と隣接	〃
48	1994	第16次2号竪立	西側のみ	長方形							9C前半 ~ 後半		〃
49	1994	第16次3号竪立	完壁	長方形	南東3間 東西2間								〃
50	1994	第16次4号竪立	完壁	長方形	南東3間 東西2間								〃
51	1994	第16次5号竪立	1/2	長方形	南東2間								〃
52	1994	第16次6号竪立	完壁	長方形	南東3間 東西2間								〃
47	1990	第17次1号住居	完壁	長方形	400 × 400	K	東		○		国分	墨書土器	埋文文化財の調査19
48	1990	第18次2号住居	完壁	長方形	300 × 300	K	東		○		国分		埋文文化財の調査19
49	2001	第19次1号住居	1/2		360 ×	K	東		○		9C 前半		埋文文化財の調査24
50	2005	第20次1号住居	完壁	長方形	320 × 350	K	北西		○	N-45W	7C前半 ~ 中		市内遺跡第1
51	2008	第21次1号住居	完壁	方形	410 × 265 × 10	K	東	145 × 125	○	N-100E	9C 後半		市内遺跡第3
52	2008	第25次1号竪立	完壁	長方形	南東2間 東西2間								市内遺跡第6
53	2008	第28巻H280号住居	完壁	方形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 83	○	N-16E	9C 後半		〃
54	2008	第28巻H289号住居	北側のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 ×	○	N-16E	9C 後半		〃
54	2008	第28巻H290号住居	完壁	長方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4E	8C 後半		〃
55	2008	第28巻H291号住居	北側のみ	(方形)	(390) × (233) × 15	K	北	88 × 84	○	N-19E	8C前半 ~ 後半		〃
56	2008	第28巻H291B号住居	北側のみ	(方形)	(404) × 325 × 2				○	N-18E			〃
57	2008	第28巻H292号住居	完壁	長方形	357 × 295 × 24	K	東	108 × 80	○	N-105E	8C前半 ~ 後半		〃
58	2008	第28巻H293号住居	北側のみ	(方形)	(214) × (205) × 16	K	東	(65) × (65)	○	N-98E	8C後半 ~ 9C初		〃
59	2008	第28巻H294号住居	完壁	方形	(378) × 375 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16E	9C 後半	墨書土器	〃
60	2008	第30巻H305号住居	完壁	長方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 88	○	N-104E	9C 前半		〃
61	2008	第30巻H307号住居	完壁	方形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16E	9C 後半	灰軸陶器	〃
62	2008	第30巻H308号住居	1/2	(方形)	375 × (105) × 17				○	N-5E	9C 後半	墨書土器	〃
63	2009	第31地点	長方形	310 × 276 × 29	K			105 × 90	○	N-7E			市内遺跡第8
64	2009	第31地点	長方形	215 × 265 × 15	K			82 × 40	無	N-88E	9C		〃
65	2011	第32巻H365号住居	完壁	長方形	355 × 460 × 35	K	北東	113 × 132	○	N-27E	10C		市内遺跡第10
66	2011	第32巻H366号住居	ほぼ完壁	方形	420 × 365 × 50	K	東	49 × 105	○	N-99E	8C後半 ~ 9C初		〃
67	2011	第32巻H367号住居	1/2	方形	(220) × 330 × 30	未	未	未	○	N-0E	10C		〃
72	2011	第35巻H372号住居	2/3	楕円長方形	(178) × 470) × 50	未	未	未	○		不明		市内遺跡第14
73	2012	第36巻H373号住居	2/3	楕円方形	320 × (177) × 60	K	北	77 × 40	○	E-7S	9C 後半		〃
74	2012	第36巻H374号住居	プランのみ	(長方形)	190 × 350	未	未	未	未		不明		〃
75	2012	第36巻H375号住居	プランのみ	(長方形)	(440) × 450	未	未	未	未		不明		〃
76	2012	第36巻H376号住居	プランのみ	(長方形)	(130) × 460	未	未	未	未		不明		〃
77	2012	第36巻H377号住居	プランのみ	(長方形)	340 × (260)	未	未	未	未		不明		〃
78	2012	第36巻H378号住居	プランのみ	(長方形)	(390) × 420	未	未	未	未		不明		〃
79	2015	第44巻H380号住居	1/2 ~ 1/3	(長方形)	330 × 140以上						9C代		本報告
80	2015	第44巻H380号住居	1/2 ~ 1/3	(長方形)	330 × 140以上						9C代		市内遺跡第19

② J25号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区北西に位置し、地下式坑と重複する。地下式坑に大部分が削平されており、また北側は調査区外のため未検出である。時期は黒浜式土器を主体とする縄文時代前期に帰属する。

【形状・規模】平面形態は円形または隅丸方形を呈すると見られるが全容は不明である。残存規模は長軸330cm以上、短軸300cm以上、深さ約10cmである。炬、柱穴は未検出。幅10～35cm、深さ18～36cmの周溝を伴う。

【ピット】周溝内よりピットを確認した。明確にピット状になるものは4基である。詳細は第10表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】今回検出した住居の範囲内では、床面に近い高さから多量の遺物がまとまって出土した。

③ H80号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北東隅に位置する。大部分は調査区外のため未検出である。帰属時期は出土遺物から9世紀代と考えられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は正方形か長方形を呈するとみられるが全容は不明である。規模は長軸約330cm、短軸約140cm以上、深さ約10cmである。遺構確認時点で既に床面まで削平されていたと考えられ、貼床は確認できなかった。周溝は上幅17～55cm、下幅6～25cm、深さ13.8cm。竈、柱穴は未検出である。

【遺物出土状況】須恵器の坏を含め、極僅かに出土した。

第10表 川崎遺跡第44地点J25号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認径	底径	深さ	備考
1	楕円形	32×16	7×4	33.2	
2	楕円形	50×25	16×15	32.3	
3	方形	27×22	20×8	27.1	
4	楕円形	40×28	32×17	20.4	

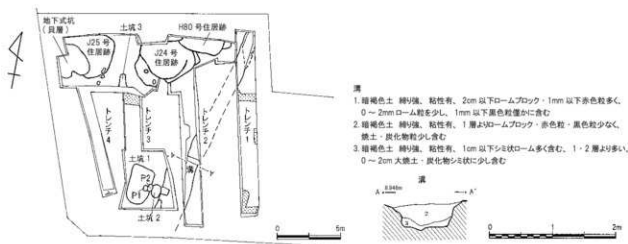
④地下式坑

調査区の北西隅に位置し、方形の入口を南東部に持つ。室部の大部分は調査区外のため未調査。そのため室部の平面形及び室部規模は不明。入口部の底部は室部の底部より約60cm高い。入口部、室部ともに底部は平坦である。規模は室部幅209cm×奥行145cm、深さ約165cm、入口部幅144cm×奥行105cm、深さ約105cmを測る。時期を特定し得るような出土遺物はない。

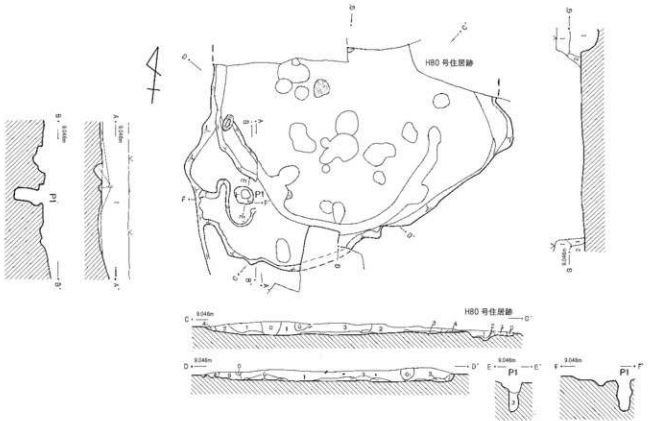
⑤貝層

地下式坑覆土中より出土した。室部の底部より約100cm上にあり、遺構断面を見る限り、地下式坑天井崩落より新しいものであると考えられる。地下式坑の埋没過程で廃棄が開始されたものと想定される。貝層の最大範囲は南北52cm、東西86cm、東から西に向かって傾斜する。深さは貝層の確認面から約50cmである。貝類の組成などについては年代測定などの結果と合わせて報告を行うこととし、本書では概要を述べるに留める。

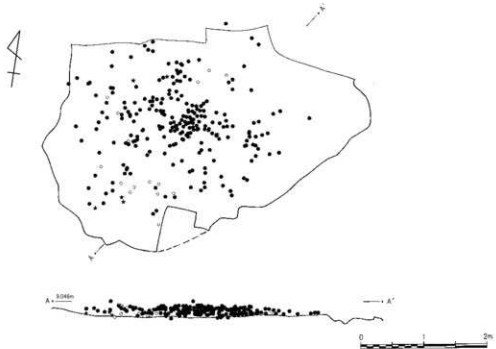
貝種の傾向としてはイシガイが主体であり、その中にオオタニシとカワニナが含まれる。カワニナに比べ、オオタニシは比較的集中して確認された。



第14図 川崎遺跡第44地点遺構配置図(1/300)、溝土層(1/60)



遺物出土状況



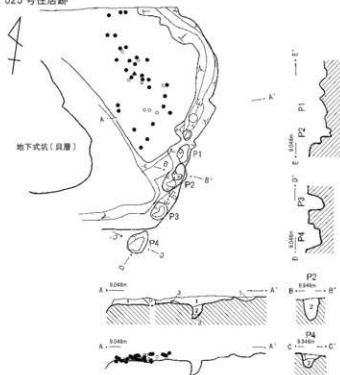
1. 黄土
0. 埋瓦
1. 磁褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物僅かに含む
2. 磁褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒少し、焼土・炭化物僅かに含む
3. 磁褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む、粘土質
4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
5. 磁褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒・焼土粒多く、炭化物僅かに含む
6. 磁褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック・粒非常に多い
7. 磁褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ロームブロック少し含む

第15図 川崎遺跡第44地点J24号住居跡・遺物出土状況(1/60)

第11表 川崎遺跡第44地点地下式坑貝層一覧表(単位cm)

層位(面)	主体となる貝	その他の貝	備考
2	イシガイ①	カワニナ①、オオタニシを含む	
4	イシガイ②	カワニナ②、オオタニシを含む	
5	イシガイ③	カワニナ③、オオタニシを含む	
7	イシガイ④	カワニナ④、オオタニシを含む	
9	イシガイ⑤	カワニナ⑤、オオタニシを含む	
11	イシガイ⑥	カワニナ⑥、オオタニシを含む	
12	オオタニシ⑥	カワニナ⑥、オオタニシを含む	
土層	—	—	断面図7層
14	イシガイ⑦	—	
16	オオタニシ⑦	カワニナ⑦を含む	
17	イシガイ⑧	—	
土層	—	—	断面図11層
19	イシガイ⑨	カワニナを含む	
21	イシガイ⑩	オオタニシを含む	
23	イシガイ⑪	カワニナを含む	
24	イシガイ⑫	—	

J25号住居跡



⑥土坑1～3

土坑1・2は調査区北側に位置し、溝とピット1・2と切り合う。土坑3は調査区北側J24号住居とJ25号住居の間に位置する。土坑1は土坑2・ピット1・2と切り合い、最も新しい。土坑2はピット2・溝と切り合い、最も古い遺構である。土層観察から土坑1・3は中近世以降で比較的新しく、土坑2は縄文時代とみられる。いずれも出土遺物はない。

【土坑1】平面形態は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は、確認面径290cm×180cm、底径260cm×150cm、深さ20.5cmである。

【土坑2】平面形態は円形を呈する。確認面径95cm×80cm、底径75cm×70cm、深さ23.7cmである。

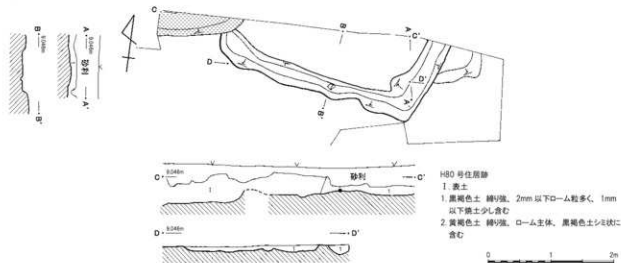
【土坑3】南側が調査区外のため正確な平面形態は不明である。確認できた範囲で、確認面径103cm以上×50cm、底径97cm以上×24cm、深さ19.7cmである。

J25号住居跡

0. 覆土

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多、炭化物少し含む
2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、1cmロームブロック少し、1mm以下ローム粒多く含む
3. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体、黒褐色土シニ状に含む

H80号住居跡



H80号住居跡

I. 表土

1. 黒褐色土 粘り強、2mm以下ローム粒多、1mm以下炭土少し含む
2. 黄褐色土 粘り強、ローム主体、黒褐色土シニ状に含む

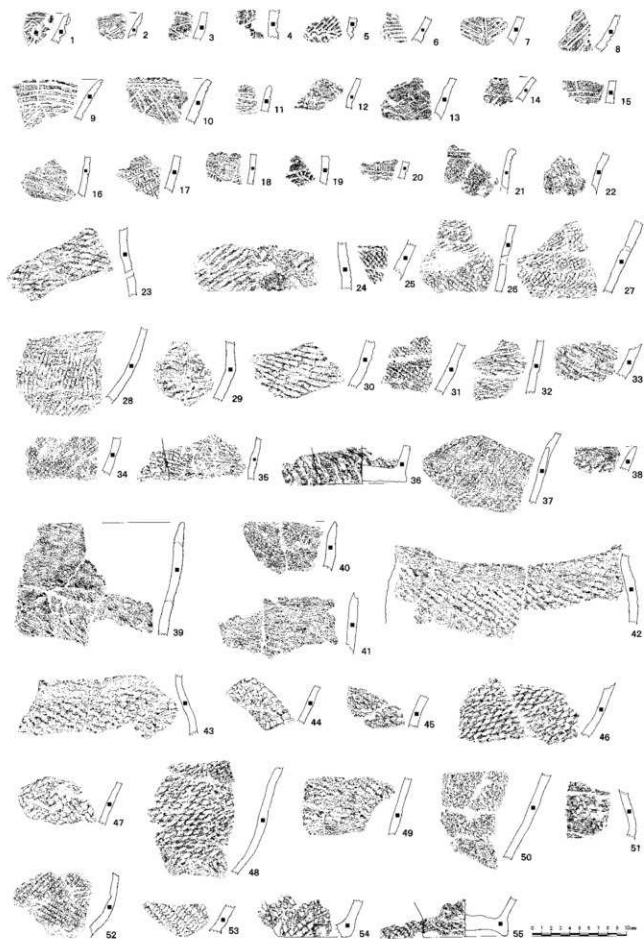
第16図 川崎遺跡第44地点 J25号住居跡・H80号住居跡(1/60)

第12表 川崎遺跡第44地点 J24号住居跡出土土物観察表(単位cm)

図版番号	分期	遺形	部位	文様/胎土/備考/注記 No.	時期	備考
1	I	深鉢	口縁部	黏付文。平行沈線。籬歯状・粗粒砂少/No.101	岡山I	
2	I	深鉢	流状口縁部	平行沈線。籬歯状・粗粒砂・極粗粒砂微/No.83	岡山I	
3	I	深鉢	口縁部	平行沈線。籬歯状・中粒砂微/A区2	岡山I	
4	I	深鉢	口縁部	平行沈線。棒子状・中粒砂微/No.62	岡山I	
5	I	深鉢	口縁部	コバシ文。平行沈線。内面ミガキ半/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/No.212	岡山I	
6	I	深鉢	口縁部	平行沈線。内面ミガキ半/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/D区1	岡山I	
7	I	深鉢	口縁部	平行沈線。内面ミガキ半/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/No.144	岡山I	
8	I	深鉢	口縁部	平行沈線。内面ミガキ半/中粒砂少/No.22	岡山I	
9	I	深鉢	流状口縁部	平行沈線。籬歯状・中粒砂中/有尾系/No.81, 182	黒浜	
10	I	深鉢	口縁部	平行沈線。籬歯状・中粒砂多/有尾系/No.121	黒浜	
11	I	深鉢	口縁部	平行沈線。中粒砂少/有尾系/A区4	黒浜	
12	I	深鉢	流状口縁部	平行沈線。籬歯状・中粒砂・粗粒砂少/有尾系/No.254	黒浜	
13	I	深鉢	口縁部	平行沈線。籬歯状・中粒砂・粗粒砂中/有尾系/No.39	黒浜	
14	I	深鉢	口縁部	爪形文。LR/中粒砂・極粗粒砂微/B区1	黒浜	
15	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中・粗粒砂微/有尾系/No.209	黒浜	
16	I	深鉢	口縁部	爪形文。内面赤彩か/中粒砂・粗粒砂中/有尾系/No.146	黒浜	
17	I	深鉢	口縁部	爪形文/粗粒砂・中粒砂少/有尾系/No.70	黒浜	
18	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中/有尾系/No.161	黒浜	
19	I	深鉢	口縁部	爪形文/粗粒砂・中粒砂少/有尾系/D区1	黒浜	
20	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中・粗粒砂少/有尾系/A区1	黒浜	
21	I	深鉢	胴部	爪形文。LR/中粒砂・粗粒砂多。角閃石/有尾系/No.25	黒浜	
22	II-1	深鉢	頸部	粗/中粒砂少/No.181	黒浜	
23	II-1	深鉢	胴部上位	粗/中粒砂・粗粒砂中/No.87	黒浜	
24	II-1	深鉢	胴部上位	LR/中粒砂少/No.18, 27	黒浜	
25	II-1	深鉢	胴部	粗/中粒砂少/No.69	黒浜	
26	II-1	深鉢	胴部	LR・R/中粒砂少/No.163	黒浜	
27	II-1	深鉢	胴部	LR。太端結節/中粒砂少/No.12, 30	黒浜	
28	II-1	深鉢	胴部	粗・LR/中粒砂少/No.170	黒浜	
29	II-1	深鉢	胴部	LR/中粒砂少/No.152	黒浜	
30	II-1	深鉢	胴部	粗/中粒砂・粗粒砂少/No.238	黒浜	
31	II-1	深鉢	胴部	粗/中粒砂少/No.65	黒浜	
32	II-1	深鉢	胴部	粗/中粒砂少/No.72, 73	黒浜	
33	II-1	深鉢	胴部	粗/中粒砂少/No.59	黒浜	
34	II-1	深鉢	胴部	LR/中粒砂多。粗粒砂少/No.58	黒浜	
35	II-1	深鉢	胴部下位	粗/中粒砂・粗粒砂微/No.130, 249	黒浜	
36	II-1	深鉢	底部	粗多量?/中粒砂・極粗粒砂少/No.10	黒浜	
37	II-2	深鉢	口縁部	LR/中粒砂・極粗粒砂少/No.117	黒浜	
38	II-2	深鉢	口縁部	LR/粗粒砂少。赤色彩/No.153	黒浜	
39	II-2	深鉢	口縁部	LR/粗粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.46, 63	黒浜	
40	II-2	深鉢	口縁部	LR/粗粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.142	黒浜	
41	II-2	深鉢	口縁部	LR/粗粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.180, 222	黒浜	
42	II-2	深鉢	頸~胴部	粗/中粒砂少/No.42~43は同一個体か/No.107, B区1	黒浜	
43	II-2	深鉢	頸~胴部	LR。太端結節/中粒砂少/No.42~43は同一個体か/No.172, 84, 85	黒浜	
44	II-2	深鉢	頸部	LR/中粒砂少/No.43	黒浜	
45	II-2	深鉢	頸部	LR/粗粒砂。中粒砂少/No.43	黒浜	
46	II-2	深鉢	頸部	LR?/中粒砂微/No.183	黒浜	
47	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂・粗粒砂中/No.47~48は同一個体か/No.117	黒浜	
48	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂・粗粒砂中/No.47~48は同一個体か/No.221	黒浜	
49	II-2	深鉢	胴部	LR。太端結節/中粒砂少/No.79	黒浜	
50	II-2	深鉢	胴部	LR・LR/中粒砂微/B区1	黒浜	
51	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂少/No.4	黒浜	
52	II-2	深鉢	胴部	LR・LR。粗粒砂中。極粗粒砂微/No.147	岡山?7	
53	II-2	深鉢	胴部下位	粗(少量多量)/粗粒砂・中粒砂少/No.61	黒浜	
54	II-2	深鉢	底部	LR/中粒砂少。粗粒砂微/No.89	黒浜	
55	II-2	深鉢	底部	LR/中粒砂少/No.97	黒浜	
56	II-3	深鉢	胴部	LR(粗)/中粒砂少。極粗粒砂微。赤色彩/No.186	黒浜	
57	II-4	深鉢	口縁部	LR+(B)/中粒砂少/No.31, 206	黒浜	
58	II-4	深鉢	口縁部	LR+(B)/中粒砂少/No.33	黒浜	
59	II-4	深鉢	胴部	LR+(B)/中粒砂中/No.127	黒浜	
60	II-4	深鉢	流状口縁部	LR-L2本(逆)・R+R2本(逆)/中粒砂多/No.67と同一個体か/No.82, 178, 224, A区3	黒浜	
61	II-4	深鉢	流状口縁部	LR-L2本(逆)・R+R2本(逆)/中粒砂少。極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.16, 2・3・トレ	黒浜	
62	II-4	深鉢	流状口縁部	LR-L2本(逆)・R+R2本(逆)/中粒砂少。極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.175, 3・トレ	黒浜	
63	II-4	深鉢	流状口縁部	LR-L2本(逆)・R+R2本(逆)/中粒砂少。極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.17	黒浜	
64	II-4	深鉢	頸部	R+R2本(逆)/中粒砂・粗粒砂少/No.6	黒浜	
65	II-4	深鉢	胴部上位	R+R2本(逆)・LR/中粒砂少/No.116	黒浜	
66	II-4	深鉢	胴部上位	R+R2本(逆)/中粒砂・粗粒砂少/No.23	黒浜	
67	II-4	深鉢	胴部上位	LR-L2本(逆)・R+R2本(逆)/中粒砂多/No.60と同一個体か/No.224	黒浜	
68	II-4	深鉢	胴部	LR-L3本(逆)/中粒砂少/No.239	黒浜	
69	II-4	深鉢	口縁部	?-LR2本(順)・逆/中粒砂少/No.234	黒浜	
70	IV-1a	深鉢	口縁部	貝殻付片。粗粒砂・中粒砂中/No.90, 91	黒浜	
71	IV-1a	深鉢	口縁部	貝殻付片。粗粒砂・中粒砂中/No.191	黒浜	
72	IV-1a	深鉢	胴部	貝殻付片。粗粒砂・中粒砂中/No.162, 230	黒浜	

第13表 川崎遺跡第44地点 J25号住居跡・地下式坑・H80号住居跡・遺構外出土遺物観察表(単位:cm)

図面番号	出土地点	分類	器形	部位	文様・胎土・備考/注記 No	時期
1	25号住居跡	B-1	深鉢	波状口縁~底部	黒・L 羽状菱形(4単位×5帯)、4単位波状口縁。追加形成技法。外面に粘土の層や中輪模直方格文/中輪砂少。小覆輪。赤色粘/最大径:34.2cm/高さ:28.8cm/底部径:13.1cm/No.9, 10, 11, 15, 17, 19, 20, 21, 22, 32, 33, 34	黒土
2		B-1	深鉢	波状口縁~底部	黒・L 羽状菱形(4単位×3帯)、4単位波状口縁/中輪砂少。小覆輪/最大径:12.5cm/高さ:20.6cm/底部径:6.8cm/No.9, 19, H2, 4トレ	黒土
3		B-1	深鉢	波状口縁~胴部下位	黒・L 羽状菱形(4単位×5帯)、4単位波状口縁/中輪砂・粗粒砂少。小覆輪/最大径:21cm/高さ:21.3cm/No.17, 34, 36	黒土
4		B-1	深鉢	胴部上位~底部	黒・L 羽状菱形(4単位×2帯)/中輪砂~粗粒砂少。小覆輪/最大径:15.2cm/高さ:14cm/底部径:6.5cm/No.19, 20, 34, H2	黒土
5		B-2	深鉢	波状口縁~胴部上位	黒・L,R 羽状菱形(6単位×3帯)、4単位小波状口縁。口縁部に1対の補修痕/粗粒砂・小覆少/最大径:19cm/高さ:(13.8cm)/No.5	黒土
6		I	深鉢	口縁部	瓜形文。准点状刺突。露飯状/中輪砂中/有尾系/No.6~8は同一個体か/No.11	黒土
7		I	深鉢	口縁部	瓜形文。准点状刺突。露飯状/中輪砂中/有尾系/No.6~8は同一個体か/No.11	黒土
8		I	深鉢	胴部	瓜形文。准点状刺突3段/中輪砂中/有尾系/No.6~8は同一個体か/No.11	黒土
9		B-1	深鉢	波状口縁~胴部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.9~13は同一個体か/No.27, 28	黒土
10		B-1	深鉢	波状口縁部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.9~13は同一個体か/No.21, 22, 27, H2	黒土
11		B-1	深鉢	波状口縁部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.9~13は同一個体か/No.10, 19, 32, 33	黒土
12		B-1	深鉢	波状口縁部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.9~13は同一個体か/No.27	黒土
13		B-1	深鉢	波状口縁部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.9~13は同一個体か/No.20, 25, 28	黒土
14		B-1	深鉢	口縁部	L 中輪砂少。赤色粘/No.28	黒土
15		B-1	深鉢	胴部上位	黒・L 中輪砂少/No.15~16は同一個体か/No.22, 23, 28	黒土
16		B-1	深鉢	胴部上位	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.15~16は同一個体か/No.27	黒土
17		B-1	深鉢	胴部上位	黒・L 粗粒砂・中輪砂少。赤色粘/No.17~19は同一個体か/No.27, 28, 37	黒土
18		B-1	深鉢	胴部上位	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.17~19は同一個体か/No.28	黒土
19		B-1	深鉢	胴部下位	黒・L 粗粒砂・中輪砂少。赤色粘/No.17~19は同一個体か/No.23	黒土
20		B-1	深鉢	口縁部	L 中輪砂少。粗粒砂/No.19	黒土
21		B-1	深鉢	口縁部	黒・L 中輪砂中/No.17	黒土
22		B-1	深鉢	胴部上位	黒・L 中輪砂・極粗粒砂少。結晶片質粘/No.22~25は同一個体か/No.5	黒土
23		B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂・極粗粒砂少。結晶片質粘/No.22~25は同一個体か/No.5	黒土
24		B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂・極粗粒砂少。結晶片質粘/No.22~25は同一個体か/No.5	黒土
25		B-1	深鉢	胴部下位	黒・L 中輪砂・極粗粒砂少。結晶片質粘/No.22~25は同一個体か/No.5	黒土
26	B-1	深鉢	胴部	L 粗粒砂少/No.26~27は同一個体か/No.12	黒土	
27	B-1	深鉢	胴部	L 粗粒砂少/No.26~27は同一個体か/No.12	黒土	
28	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粗粒砂・中輪砂少/H2	黒土	
29	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少。赤色粘/No.17	黒土	
30	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂・極粗粒砂少。赤色粘。内面ミガキ強/No.36	黒土	
31	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/No.19	黒土	
32	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/No.19	黒土	
33	B-1	深鉢	胴部	L 中輪砂少/No.22	黒土	
34	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粘土継ぎせ/中輪砂少/No.33	黒土	
35	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粘土継ぎせ/中輪砂少/No.19	黒土	
36	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粘土継ぎせ/中輪砂中/No.19	黒土	
37	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/No.19	黒土	
38	B-1	深鉢	胴部	L 粗粒砂少/No.9	黒土	
39	B-1	深鉢	底部	黒・L 中輪砂中。小覆輪/No.4	黒土	
40	B-1	深鉢	底部	黒・L 中輪砂少/No.16, 33	黒土	
41	B-1	深鉢	底部	L 底面ミガキ強/中輪砂少。小覆輪/No.7	黒土	
42	B-2	深鉢	口縁部	L 中輪砂少/No.19	黒土	
43	B-2	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/H2	黒土	
44	B-4	深鉢	底部	L + R(混) 中輪砂少/No.33	黒土	
45	V	深鉢	胴部	無文・粗粒砂少/No.10	黒土	
46	V	深鉢	胴部	無文・粗粒砂・中輪砂少/No.12	黒土	
47	V	深鉢	胴部	無文・中輪砂少/No.33	黒土	
48	I-1	深鉢	波状口縁部	瓜形文。露飯状/中輪砂・粗粒砂少。小覆輪/有尾系/地下式坑 No.41, H1	黒土	
49	I-1	深鉢	波状口縁部	瓜形文。露飯状/中輪砂少/有尾系/地下式坑 No.19	黒土	
50	I-1	深鉢	口縁部	瓜形文。露飯状/中輪砂少/有尾系/地下式坑 H3	黒土	
51	I-1	深鉢	口縁部	瓜形文。露飯状/中輪砂・粗粒砂少/有尾系/地下式坑 A区1	黒土	
52	I-2	深鉢	口縁部	瓜形文。露飯状。混。内面ミガキ強/中輪砂・粗粒砂少。小覆輪/地下式坑 H1	黒土	
53	I-3	深鉢	波状口縁~胴部	平行波状。黒・L 中輪砂・粗粒砂少/有尾系/地下式坑 H2, H3	黒土	
54	B-1	深鉢	波状口縁部	黒・L 中輪砂・粗粒砂少/地下式坑 H3	黒土	
55	B-1	深鉢	波状口縁部	L 中輪砂少/地下式坑 No.27	黒土	
56	B-1	深鉢	波状口縁部	混。内面赤彩か。粗粒砂中/地下式坑 No.38	黒土	
57	B-1	深鉢	口縁~胴部	L 中輪砂少/地下式坑 H1	黒土	
58	B-1	深鉢	口縁部	L 中輪砂多/No.58~59は同一個体か/地下式坑 No.41	黒土	
59	B-1	深鉢	胴部	L 中輪砂多/No.58~59は同一個体か/地下式坑 H1	黒土	
60	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粗粒砂・中輪砂中/地下式坑 No.16, A区1	黒土	
61	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/地下式坑 H1	黒土	
62	B-1	深鉢	胴部	黒・L 中輪砂少/地下式坑 H1	黒土	
63	B-1	深鉢	胴部	黒・L 粗粒砂・中輪砂少/地下式坑 H1	黒土	
64	B-2	深鉢	胴部	黒・L,R 中輪砂・粗粒砂少/地下式坑 No.25, 30	黒土	
65	B-2	深鉢	胴部	L 中輪砂多/No.65~66は同一個体か/地下式坑 No.37, H1	黒土	
66	B-2	深鉢	胴部	L 中輪砂多/No.65~66は同一個体か/地下式坑 H3	黒土	
68	H80号住居跡	-	須恵器環	口縁~底部	底面粘糸系切羽太露飯。内面に水濁痕有り/白色粘子・白針状物質/口縁径:(12.0cm)/高さ:3.8cm/底径:6.4cm/No.1, H1	9世紀代
69		-	須恵器環	底部	底面粘糸系切羽有り/白色粘子・白色針状物質・石質/底径:6.6cm/H1	9世紀代
70	遺構外	I	深鉢	口縁部	瓜形文。露飯状/粗粒砂・中輪砂中/有尾系・2・3トレ	黒土
71		I	深鉢	口縁部	平行波状。粗粒砂少。極粗粒砂少/有尾系・3トレ	黒土
72		B-1	深鉢	波状口縁部	L 中輪砂少/3・4トレ	黒土
73		B-1	深鉢	口縁部	L 中輪砂少/3・4トレ	黒土
74		B-1	深鉢	口縁部	黒・L 中輪砂少/2・3トレ	黒土
75		B-1	深鉢	胴部	L 中輪砂少/3・4トレ	黒土
76		B-1	深鉢	胴部下位	黒・L 粗粒砂少/2・3トレ	黒土
77		B-2	深鉢	口縁部	黒・L,R 露付未施。粗粒砂少/2・3トレ	黒土
78		B-2	深鉢	胴部	黒・L,R 中輪砂中・3・4トレ	黒土
79		-	甕	胴部	割付口磨耗。粘用泥。中輪砂少/3トレ	常用/中古品



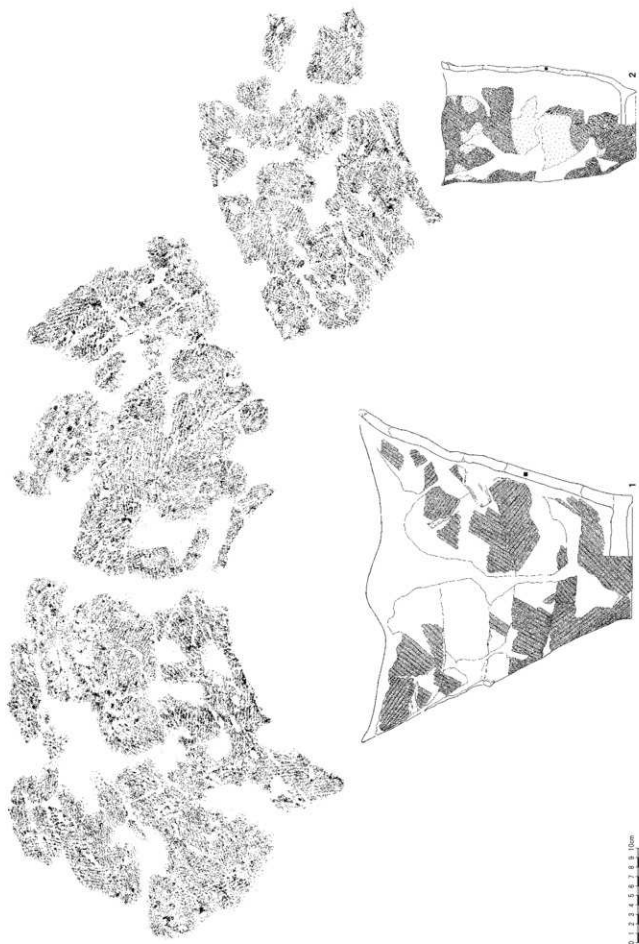
第17図 川崎遺跡第44地点J24号住居跡出土遺物① (1/4)

第14表 川崎遺跡第44地点出土石器観察表(単位cm・g)

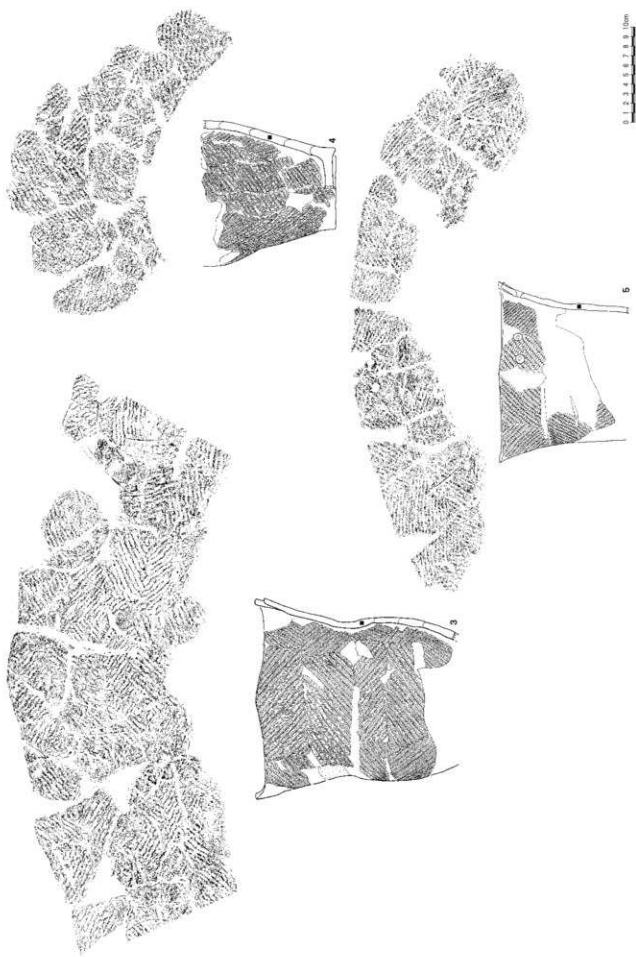
図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定産地	推定年代	現存/備考
第18図73	J24号住居跡・151	石鏃	(2.45)	2.0	0.5	(2.38)	チャート	縄文時代	先端、基部欠損
第18図74	J24号住居跡・150	スクレイパー	2.65	3.6	0.7	5.13	黒曜石	縄文時代	欠形/主刺離面残す
第18図75	J24号住居跡・41	敲き石	7.35	5.7	3.3	200.55	緑色岩	縄文時代	欠形/磨製石斧を転用
第18図76	J24号住居跡・1	攻勢	(1.2)	(1.4)	0.8	(2.39)	滑石	縄文時代	同一個体、分離して使用か
第18図77	J24号住居跡・149	攻勢	3.0	(2.0)	0.8	(5.47)	滑石	縄文時代	
第22図67	J25号住居跡・H3	打製石斧?	(14.4)	(6.9)	(2.0)	(190.64)	ホルンフェルス	縄文時代	磨化が著しく、脆い



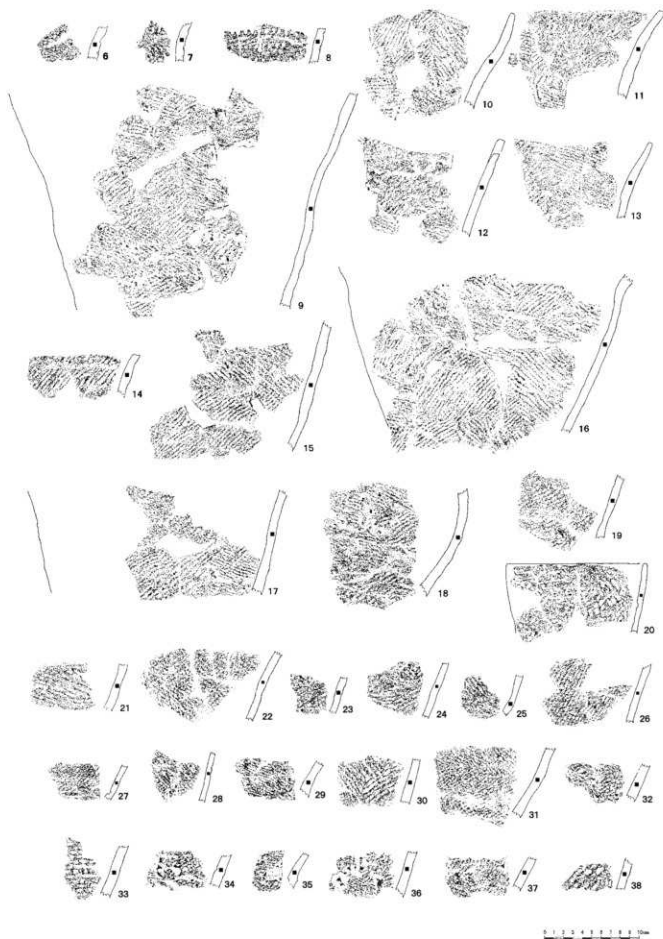
第18図 川崎遺跡第44地点J24号住居跡出土遺物②(1/4・1/2・2/3)



第 19 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物① (1/4)

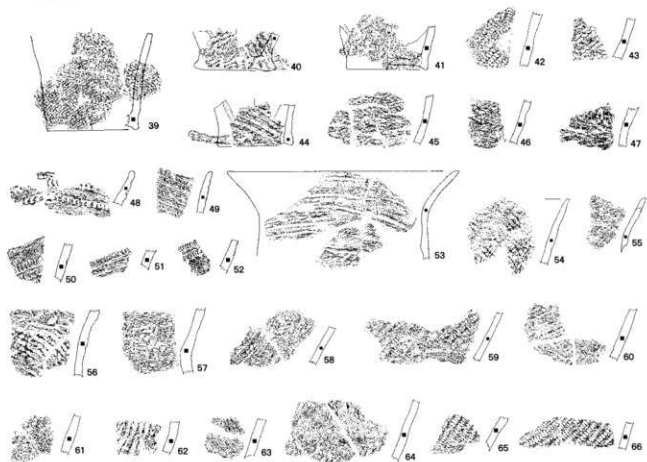


第20図 川崎遺跡第44地点J25号住居跡出土遺物② (1/4)

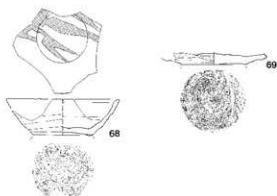


第21図 川崎遺跡第44地点J25号住居跡出土遺物③ (1/4)

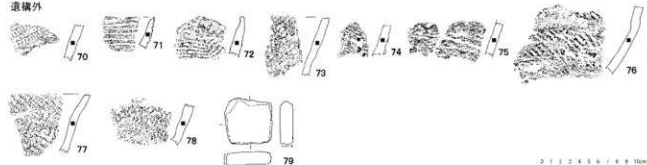
J25号住居跡



H80号住居跡



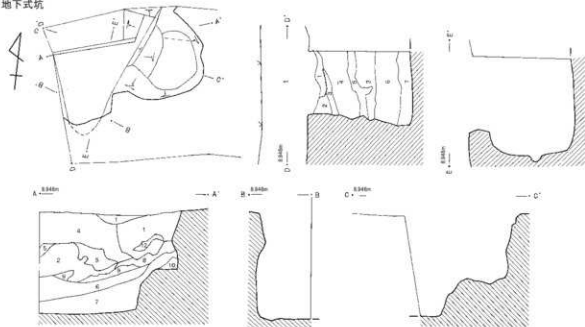
遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

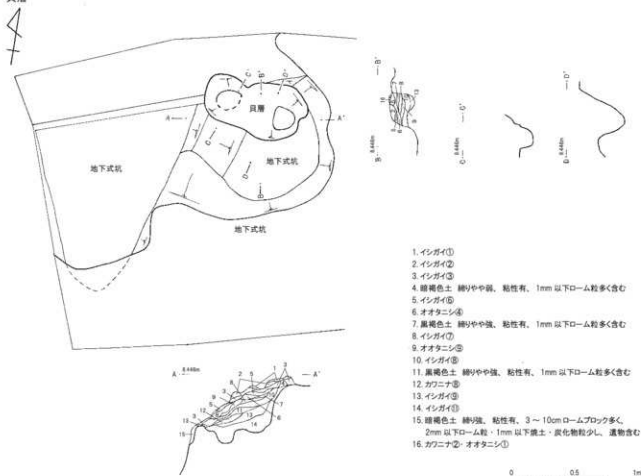
第22図 川崎遺跡第44地点地J25号住居跡出土遺物④・H80号住居跡・遺構外出土遺物(1/4)

地下式坑



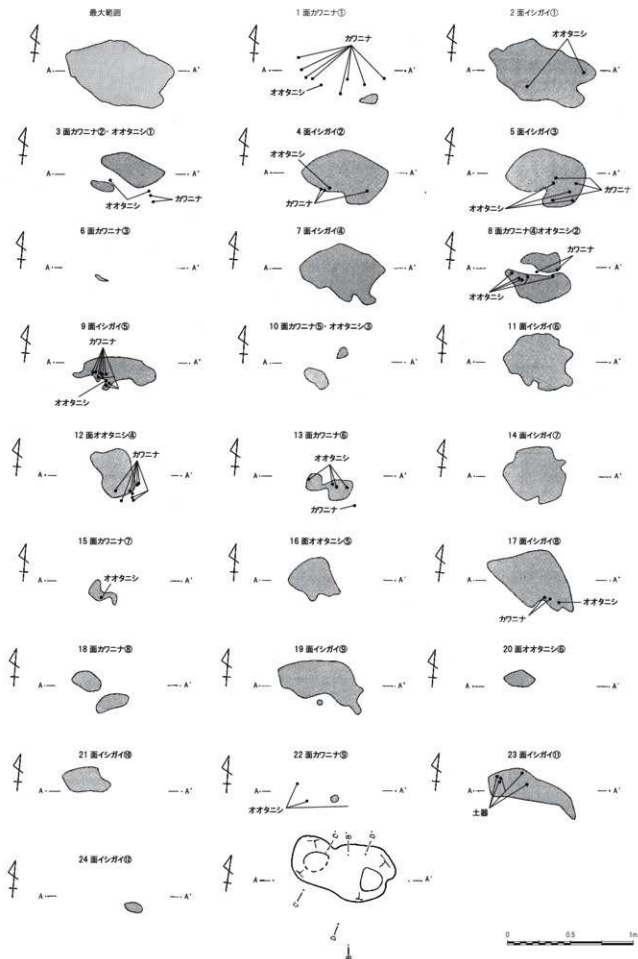
1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。1mm以下ローム粒・炭化物粒少し含む
2. 黄褐色土 粘り強。粘性有。天井ローム
3. 黄褐色土 粘り強。粘性有。ローム主体。暗褐色土シミ状に少し含む
4. 暗褐色土 粘り強。粘性有。3～10cmロームブロック多く。2mm以下ローム粒・1mm以下塵土・炭化物粒少し。遺物含む
5. 暗褐色土 粘りやや弱。粘性有。4層・2cm以下ロームブロック多く。遺物含む
6. 灰い黄褐色土 粘りやや弱。粘性有。2cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く含む
7. 黄褐色土 粘り強。粘性有。2cm以下ロームブロック僅かに。2mm以下ローム粒少し含む
8. 暗褐色土 粘り強。粘性有。1cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く。1mm以下炭化物粒僅かに含む
9. 暗褐色土 粘りやや強。粘性有。3cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く。1mm以下褐色土粒少し含む
10. 黄褐色土 粘り強。粘性有。ローム主体。黄褐色土シミ状に含む
11. 暗褐色土 粘り強。粘性有。2cm以下ロームブロック少し。2mm以下ローム粒多く。2mm以下炭化物粒少し含む。貝層部分覆土
12. 貝層

貝層



1. イシガイ①
2. イシガイ②
3. イシガイ③
4. 暗褐色土 粘りやや弱。粘性有。1mm以下ローム粒多く含む
5. イシガイ④
6. オオタニシ④
7. 黄褐色土 粘りやや強。粘性有。1mm以下ローム粒多く含む
8. イシガイ⑤
9. オオタニシ⑤
10. イシガイ⑥
11. 黄褐色土 粘りやや強。粘性有。1mm以下ローム粒多く含む
12. カワナ⑩
13. イシガイ⑦
14. イシガイ⑧
15. 暗褐色土 粘り強。粘性有。3～10cmロームブロック多く。2mm以下ローム粒・1mm以下塵土・炭化物粒少し。遺物含む
16. カワナ⑨・オオタニシ①

第23図 川崎遺跡第44地点地下式坑(1/60)、貝層(1/30)



第24図 川崎遺跡第44地点貝層出土状況(1/30)

⑦ピット

いずれも調査区南側で検出した。ともに土坑1・2と重複関係にあり、土坑2より新しく、土坑1より古い。所属時期は土層観察から中近世以降とみられ、また2基の時期差は大きく開かないものと考えられる。

【ピット1】平面形態は円形を呈する。確認面径45cm×35cm、深さ49.7cmである。

【ピット2】平面形態は楕円形を呈し、確認面径50cm×30cm、深さ34.6cmである。

⑧溝

溝は調査区北東隅から南端にかけて検出した。南北に主軸をとり、規模は現況で15m、両端はそれぞれ調査区外に延伸する。遺構の規模は上幅60cm～90cm、下幅約45cm、深さ40cm～62cm、断面形状は逆台形である。土層観察から中近世以降のものと考えられる。出土遺物はない。

⑨出土遺物

出土遺物については、第12・13表参照。また、縄文土器の分類基準については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第5集『市内遺跡群4』2009.3「上福岡貝塚第1地点の本調査【土器の分類基準】」に準じた。

(岡崎)

第I類 口縁部文様帯を有するもの、あるいは胴部に一定の施文帯を有するもの。

第1種 口縁部文様帯に4単位の鋸歯状文(菱形文)を有するもの。有尾式土器。

第2種 口縁部に多単位の鋸歯状文(菱形文)や渦巻文を有するもの。

第3種 口縁部に平行沈線文を重層するもの。

第4種 口唇部に幅狭い文様帯を有するもの。

第5種 格子目文を有するもの。a 格子目文だけのもの、b 格子目文と縄文を施文するものに大別する。

第6種 コンパス文と平行沈線文を有するもの。

第7種 縦方向の沈線文を有するもの。

第8種 胴部に施文帯を有するもの。施文される文様には幾つかの種類がある。

第9種 沈線による所謂「肋骨文」を有するもの。

第II類 縄文が施文された土器群を一括する。

第1種 無節斜縄文の土器。

第2種 単節縄文の土器。

第3種 異条斜縄文の土器。

第4種 付加条縄文の土器。a 順方向、b 逆方向、c 順・逆両方向付加に大別する。

第5種 反摺りの縄文が施文された土器。

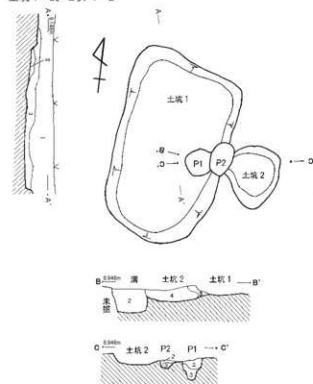
第III類 絡糸体が施文された土器群を一括する。

第IV類 貝殻背圧痕文と貝殻腹縁文の土器を一括する。

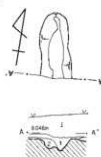
第1種 a 貝殻背圧痕だけの土器。b 貝殻背圧痕と縄文を施文する土器。c 貝殻背圧痕と沈線文を施文する土器。

第2種 貝殻腹縁文の土器。

土坑1・2、ピット1・2



土坑3



土坑1・2

I 表土

II 地山ローム

2 暗褐色土 粘り強、粘性を、2cm以下ロームブロック・1mm以下赤色粒・黒色粒少し含む

3 暗褐色土 粘りや中強、粘性を、1cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く含む

4 暗褐色土 粘り強、粘性を、1mmローム粒僅か、1mm焼土・炭化物少し含む

土坑3

I 表土

1 暗褐色土 粘りや中強、粘性を、1cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く、1mm以下炭化物粒含む

2 暗褐色土 1層に比べ、ロームブロックを多く含む

ピット1・2

2 暗褐色土 粘りや中強、粘性を、1mm以下ローム粒少し含む

3 暗褐色土 粘りや中強、粘性を、2cm以下ロームブロック少し含む

0 1 2m

第25図 川崎遺跡第44地点土坑・ピット(1/60)

第5章 松山遺跡第85地点の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷲森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

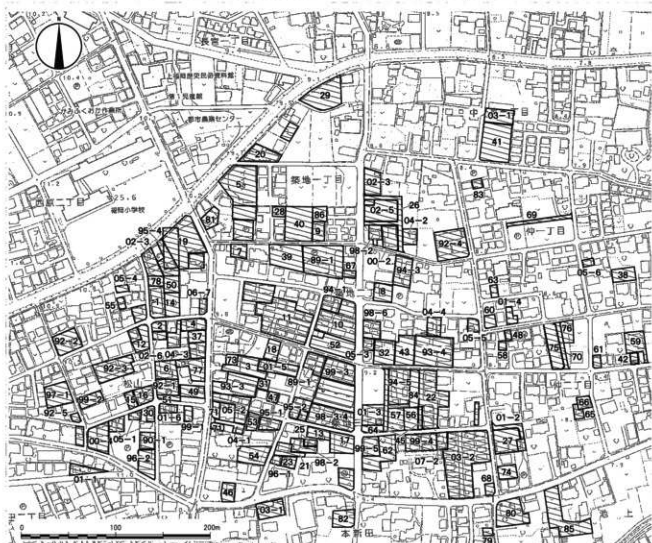
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所て調査が行われている。主たる時代と遺構は、

長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年3月17日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年10月1日～19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ8本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。

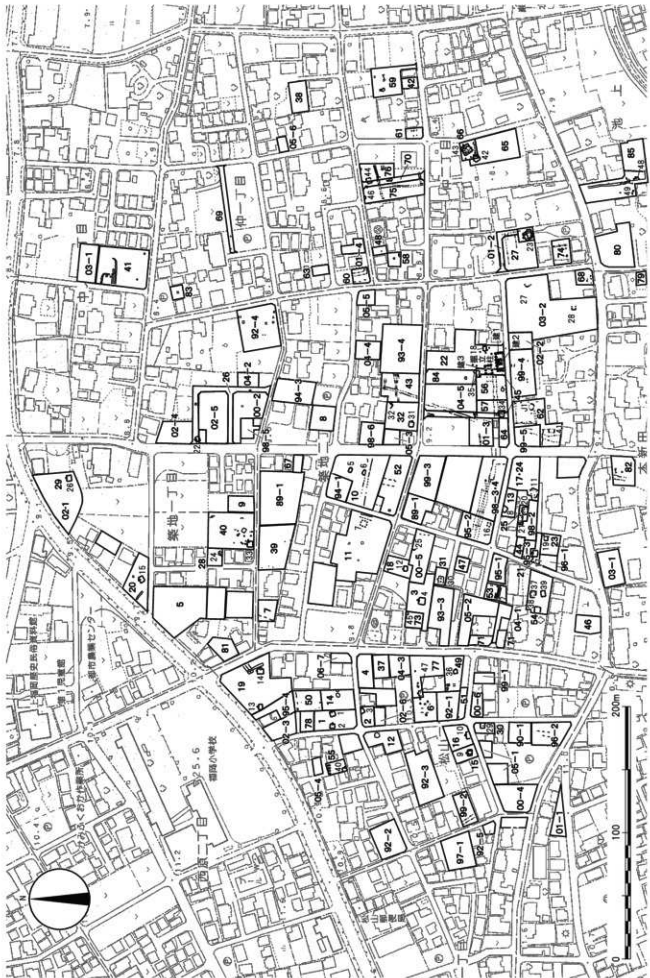


第26図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第15表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (又は試掘調査)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6～7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19～21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14～23(2005.6.9～13)	120	個人住宅	吉壇時代住居跡 1	市内1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30～9.13)	567	宅地造成	平安時代住居跡 1	市内1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30～9.7/9.8～13)	132	個人住宅	平安時代住居跡 2	市内1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20～21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10～20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2～8/2.21～3.9)	1,047	宅地造成	奈良時代住居跡 1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7～02.21～3.5)	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11～24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9～11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地 3-4-7 の一部内	(2008.9.4～30/10.1～23)	390	道路	奈良平安時代住居跡 2、欄干建物跡 2、契穴遺構 1、均整不明の溝 10、土坑、ビット	市内6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ビット	市内8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17～22/10.27～11.18)	449	宅地造成	平安時代住居跡 1(住居内竈台・炉跡)、土坑 1、溝 1、ビット 1	市内8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27～12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ビット 7	市内8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10～13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	分譲住宅	溝 1、溝と穴 1、工事立会	市内10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10～21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アグラ 1、管工事	市内10
54	築地 3-1-6・76～83	(2010.9.21～10.1)10.4～11.5	540	宅地造成	奈良平安時代住居跡 3 確認、西側の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17/1.18～31)	226	個人住宅	奈良平安時代住居跡 1、欄干建物跡 1、本調査	市内10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4～14/4.11～15)	483	共同住宅	奈良平安時代新創柱建物跡 2、本調査(一部工事立会)	市内11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4～15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 住居跡と溝、遺物なし	市内14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6～8/6.14)	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ビット 1、本調査	市内14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9/8.10～11)	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、切石、工事立会	市内14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11～21)7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、鉄貨、他	市内12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内15
65	仲 2-1-25・36	(2012.3.13～18/2.19～3.21)	630	物置	奈良平安時代住居跡 2、欄干建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ビット 4、須恵器、土師器等	市内15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10/11/9.12～17)	298	道路	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11～16/4.17～23)	220	道路	奈良平安時代住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土塊、陶磁器	市内18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	ビット 1、古銭、陶器片 1	市内18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19/8.26)	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14～20/8.5～11)	606	分譲住宅	平安時代住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22～28/9.26～10.2)	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内18
76	仲 2-2-37(6区画)	(2014.1.22～28)11.12～17	120	個人住宅	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、土師器	市内18
76	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)	362	宅地造成	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3～12)3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	245	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	新田 395.1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362.1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1～19)10.20～26	1,244	分譲住宅	奈良平安時代住居跡 2、屋敷の境土坑 1、中世以降の溝 5、須恵器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品	市内19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告

※詳：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺跡：上福岡市遺跡調査会報告書、教委：上福岡市教育委員会、市内：ふじみ野市内遺跡調査報告書



第27図 松山道跡遺構分布図 (1/3,000)

第16表 松山遺跡古代住居跡一覧表(単位cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査者	平面図 (1/50縮尺)	規模	炉 形状	竈 位置	台マド		埋溝	土壁方位	時期	備考	文献	
								幅	深						
1	1978	第1次1号住居	完備	正方形	390×380	K	東	110×75	○			9C前半		埋蔵文化財の調査1	
2	"	第1次2号住居	完備	台形	360×320	K	東	120×85	○			9C前半		埋蔵文化財の調査1	
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350×10	K	東				一部	9C後半		埋蔵文化財の調査II	
4	"	第3次4号住居	完備	方形	530×475	K	北	200×100	○		N-14E	9C後半		埋蔵文化財の調査II	
5	1991	第10次5号住居	完備	長方形	230×350	K	北→東					9C 2中期		埋蔵文化財の調査14	
6	"	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	東					9C 2中期		埋蔵文化財の調査14	
7	"	第11次7号住居	完備	正方形	400×400							8C 4中期		埋蔵文化財の調査14	
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×							N-10E	8C 3中期	埋蔵文化財の調査15	
9	1993	第15次9号住居	完備		A440×350, B420×310, C260×300	K	東→北	A210×210, B210×210, C80×65	○			9C 1中期	遺跡型別調査出土	埋蔵文化財の調査16	
10	"	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	130×80	○			8C 4中期		埋蔵文化財の調査16	
11	"	第17次11号住居	完備	方形	600×600	K	北					7C 4中期		埋蔵文化財の調査16	
12	"	第18次12号住居	完備	方形	400×320	K	北			(□)		8C 4中期		埋蔵文化財の調査16と市史	
13	1994	第19次13号住居	完備	長方形	450×300	K	北			○	N-5E	9C 1中期		松山遺跡第19次調査概要	
14	"	第19次14号住居	完備	長方形	450×500	K	東→北			○	N-5E	9C 1中期		松山遺跡第19次調査概要	
15	"	第20次15号住居	完備	長方形	370×470	K	北西	70×70	○			7C 4中期		松山遺跡第20次調査	
16	1995	7年試掘(2)16号住居									N-20W	6C		未報告	
17	"	第21次17号住居	完備	長方形	480×400	K	北					7C 4中期		埋蔵文化財の調査19	
18	1997	第22次18号住居	完備	長方形	240×460	K	東	90×60	○	N-50E		8C末		埋蔵文化財の調査20	
	"	第22次1号竪立	部分	長方形	東西5間 南北3間							8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20	
	"	第22次2号竪立	部分	長方形	東西2間 南北2間							8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20	
	"	第22次3号竪立	部分	長方形	(東西2間)南北3間							8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20	
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290							N-30W	8C後半	土葬6点出土	埋蔵文化財の調査21
20	1999	第25次20号住居											8C初葉	埴土土器器	市史遺文編
21	"	第25次21号住居											8C初葉		未報告
22	2000	第26次22号住居	完備		360×	K	北					7C後半	14年度実測、地味住居	埋蔵文化財の調査23	
23	"	第27次23号住居	完備	台形	600×720	K	北					8C前半		埋蔵文化財の調査23	
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西					8C中葉		埋蔵文化財の調査24	
25	2000	12年度試掘3	2/3											埋蔵文化財の調査23	
26	2002	第29次26号住居	完備	長方形	420×360	K	北					7C後半		埋蔵文化財の調査25	
27	2003	15年度試掘27号住居	一部		(盛土保存)									埋蔵文化財の調査26	
28	"	15年度試掘28号住居	1/2		(盛土保存)									埋蔵文化財の調査26	
29	"	第30次29号住居	完備	長方形	360×420	K	東					9C前半		埋蔵文化財の調査26	
30	2005	第31次30号住居	完備	長方形	360×600	K	北						土葬出土	市内遺跡群1	
31	"	第32次31号住居	完備	長方形	380×330×	K	東					S-65E	9C中葉	市内遺跡群1	
32	"	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東					S-85E		市内遺跡群1	
33	2006	40地点H33号住居	完備	方形	455×420	K	北	98×154	○		N-5E	8C後半		市内遺跡群3	
34	2008	45地点H34号住居	完備	方形	364×361	K	東	122×125	○		N-96E			市内遺跡群6	
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	(220×(222))									地味住居	市内遺跡群6
36	2009	49地点H36号住居	完備	方形	280×290	K	東	105×100	○		N-92E	8C後半	観測計1	市内遺跡群7	
37	2010	54地点H37号住居	完備	方形	434×524	K	北	70×86	○		N-13E	8C1四前期		市内遺跡群9	
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440×468)	K	東	95	○		N-107E	8C1四前期		市内遺跡群9	
39	2010	54地点H39号住居	完備	方形	336×459	K	北	79×101	○		N-4E	8C1四前期		市内遺跡群9	
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300×(320))	K	東	95×123	○		N-90E	9C前半		市内遺跡群10	
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北					N-18E		市内遺跡群12	
42	2013	65-66地点H42号住居		方形	460×440	K	東	110×106	○		N-62E	9C前半		市内遺跡群15	
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	-	-	-	-		N-66E	9C中葉前後以降		市内遺跡群15	
	2013	66地点H43B号住居		方形	700×700	K	東				N-66E	9C中葉前後以降		市内遺跡群15	
44	2013	70-76地点H44号住居		(長方形)	(420×340)	K	北	80×65	○			8C前半		市内遺跡群18	
45	2013	73地点H45号住居		不明	(238×125)							8C後半		市内遺跡群18	
46	2013	75地点H46号住居		不明	(320×145)							8C前半～中		市内遺跡群18	
47	2013	77地点H47号住居		不明	410×(95)	K	北	156×133	○			8C中～後半		市内遺跡群18	
48	2015	85地点H48号住居	完備	(長方形)	355×(270)	K	北	133×(96)	○		N-65E	9C後半		市内遺跡群19	
49	2015	85地点H49号住居	1/2	(長方形)	(226×70)	K	北	82×50	○		N-60E	9C後半		市内遺跡群19	

人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ2で古代の住居跡とみられるプランと焼土跡を確認した。トレンチ4では古代の住居跡と中近世以降の溝(溝1・3・4)を、トレンチ5～8でも溝(溝1～3)を確認した。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～60cmであった。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、トレンチ9は道路部分であり、上下水道等の埋設が行われ遺跡への影響が避けら

れないため、原因者負担による本調査を行った。他の部分については、約30cmの盛土を行うため、遺跡への影響がないので、工事立会いの措置とした。

本調査は、溝3の確認された部分を重機で拡張し、10月20日～26日まで人力による調査を行った。機材等の撤去は30日に行った。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

Ⅲ 遺構と遺物

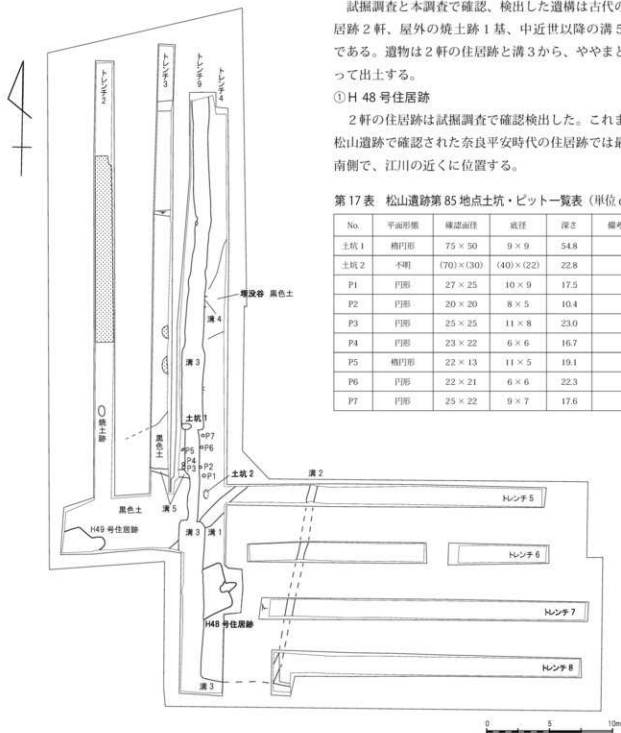
試掘調査と本調査で確認、検出した遺構は古代の住居跡2軒、屋外の焼土跡1基、中近世以降の溝5本である。遺物は2軒の住居跡と溝3から、ややまとまって出土する。

① H 48号住居跡

2軒の住居跡は試掘調査で確認検出した。これまで松山遺跡で確認された奈良平安時代の住居跡では最も南側で、江川の近くに位置する。

第17表 松山遺跡第85地点土坑・ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
土坑1	楕円形	75×50	9×9	54.8	
土坑2	不明	(70)×(30)	(40)×(22)	22.8	
P1	円形	27×25	10×9	17.5	
P2	円形	20×20	8×5	10.4	
P3	円形	25×25	11×8	23.0	
P4	円形	23×22	6×6	16.7	
P5	楕円形	22×13	11×5	19.1	
P6	円形	22×21	6×6	22.3	
P7	円形	25×22	9×7	17.6	



第28図 松山遺跡第85地点遺構配置図(1/300)

【位置・時期】本住居跡は調査区の南部に位置し、溝3に切られるため、全容は不明である。出土遺物から9世紀後半頃とみられる。主軸方位はN-65°-E。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈するとみられるが、溝3に切られるため全容は不明である。

検出部の規模は主軸の東西270cm以上×南北356cm、深さ17cmである。掘方は地山ローム層まで全体の掘り下げた後、貼床を行う。

【ピット】ピットは確認されなかった。

【竈】住居跡北壁中央部やや南寄りに位置する。天井は崩壊しており、袖の一部と奥壁を検出した。左袖の周辺には構築部材の灰色粘土がみられる。内部の中央に支脚が直立した状態で出土した。

竈残存部の長軸133cm以上、袖部の最大幅(96)cmである。竈内部は幅約40cm、奥行き約73cmで床面からの深さは約17.6cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約85cm掘り込む。

【周溝】貼床後に周溝を掘り上げる。竈周辺部で途切れる。上幅21～35cm、下幅11～20cm、深さ5.8～8.7cmである。

【遺物出土状況】竈内と住居跡床面から出土する。

【遺物】(第32図1～4)1は須恵器環、2は土師器甕、3は支脚で4は土製品の焼粘土である。詳細は第18表参照。

②H49号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南西端に位置し、調査区外に延び全容は不明である。出土遺物から9世紀後半頃とみられる。主軸方位はN-60°-E。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈するとみられるが全容は不明である。

検出部の規模は主軸の東西70cm以上×南北(225)cm以上、深さ10.7cmである。竈と住居の北西隅の壁を検出したのみのため、掘方は不明である。竈前面の掘り込みはピットとした。

【周溝】周溝は確認されなかった。

【ピット】竈の前面に位置する。竈右袖と重なるため、柱穴ではなく、住居の掘方の一部と考えられる。

平面形態はほぼ円形を呈する。規模は確認直径50×45cm、底径20×9cm、深さ8.2cmである。

【竈】住居跡北壁に位置する。天井部、袖は確認されず、僅かに焼土の分布と掘り込みを確認した。

竈内部は幅約82cm、奥行き約50cmで床面からの深さは約3.3cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約

50cm掘り込む。

【遺物出土状況】ピット内と住居跡内から僅かに出土する。出土遺物は第18表参照。

③焼土跡

調査区の中央部西寄りに位置する。焼土範囲はほぼ楕円形を呈する。焼土層の観察から古代以前と考えられる。焼土層を取り除いた規模は上端82×58cm、底径72×36cm、深さ7.5cmである。焼土範囲は45×(15)cmである。

④溝

溝は5本確認したが、溝4は断面だけを確認したため、土坑などの可能性も考えられる。溝3と溝5は切り合っており溝3が新しい。

【溝1】溝1と溝3は切り合っており、溝1が古い。溝1は調査区中央部に位置し北東から南西方向に延びる。断面は逆台形を呈する。規模は上幅54～115cm、下幅33～55cm、深さ32.8cmである。

【溝2】溝2は調査区中央部付近に位置し、調査区外まで延びる。南側では溝3と切り合い、溝2が新しい。断面は「U」字形を呈する。規模は上幅50～75cm、下幅32～35cm、深さ21～28cmである。

【溝3】溝1は調査区中央部を南北方向に直線的に延び、調査区南端で東にほぼ直角に曲がる。溝1、溝2、溝5と切り合っており、溝1・5より新しく、溝2より古い。

調査区中央部で、一部細く浅くなり陸橋状を呈する。深い部分の断面は逆台形を呈する。規模は深い部分が上幅130～190cm、下幅78～158cm、深さ43.2～62.6cmである。細くなった部分は上幅75～101cm、下幅36～45cm、深さ30cmである。細く、浅くなった部分の底部近くから遺物が僅かに出土する。第32図7～11で、第18表参照。

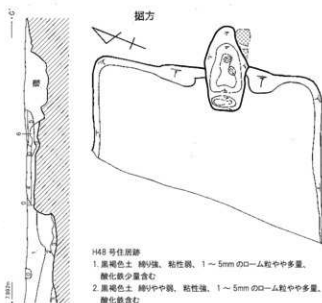
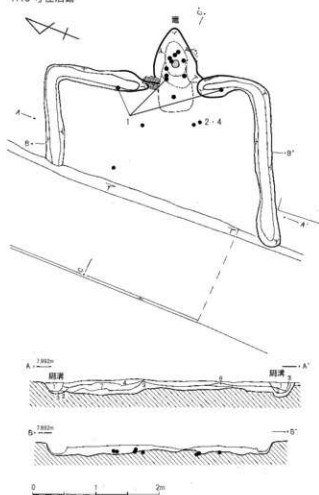
【溝4】溝2は溝3の検出時に、調査区東側の断面で確認した。断面は逆台形を呈する。規模は上幅146cm、下幅112cm、深さ30.5cmである。

【溝5】溝5は調査区中央部付近に位置し東西方向に延びる。溝3と切り合い、溝5が古い。断面は「V」字形を呈する。規模は上幅75cm、下幅45cm、深さ29.4cmである。

⑤土坑・ピット

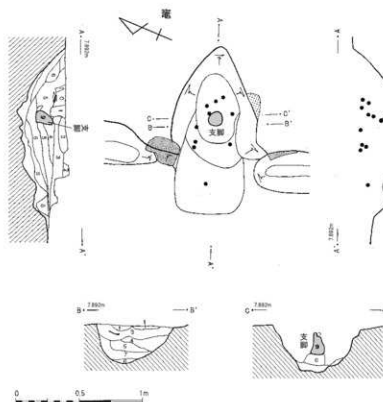
土坑2基とピット7基は調査区中央部の溝3周辺に位置する。土坑、ピットともに覆土層の観察から、中近世以降とみられる。詳細については第17表を参照。

H48号住居跡

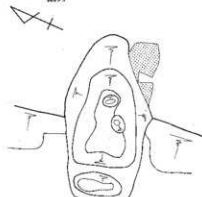


H48号住居跡

1. 黒褐色土 粘り強、粘性弱、1～5mmのO-ム粒やや多量、酸化鉄少量含む
 2. 黒褐色土 粘りやや弱、粘性強、1～5mmのO-ム粒やや多量、酸化鉄含む
 3. 黄褐色土 粘りやや強、粘性強、ソフトローム層
 4. 黒褐色土 粘りやや強、粘性やや弱、1～5mmのO-ム粒少量、焼土粒微量に含む
 5. 黒褐色土 粘りやや強、粘性やや強、3～5mmのO-ム粒多量、電機炭土を微量に含む
 6. 黒褐色土 粘り強、粘性やや強、焼土少量、炭化物微量、電機炭土を含む
 7. 黒褐色土 粘りやや弱、粘性やや強、褐色土をシミ状に含む
 8. 暗褐色土 粘り強、粘性やや強、焼土少量、黒褐色土をまばらに含む
 9. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下O-ム粒、2mm以下焼土粒・炭化物粒少し含む、上面に粘土・焼土・炭化物有る
- 周溝
1. 暗褐色土 粘りやや強、粘性やや弱、5mm大のO-ム粒微量に含む
 2. 暗褐色土 粘りやや弱、粘性強、1～5mmのO-ム粒少量、焼土粒微量、黒色土・ロームがブロックに含まれる
 3. 暗褐色土 粘りやや弱、粘性やや強、黒色土・ロームがブロック状に含まれる



掘方



掘

0. 覆土
1. 灰白色土 粘り強、粘性有、3mm以下シミ状黒褐色土・暗赤褐色土を少し含む、電機炭粘土（粘土主体）
2. 黒色土 粘り強、粘性有、1mm以下灰白色粘土・焼土粒少し含む
3. 暗灰褐色土 粘り強、粘性有、暗灰褐色粘土主体に2mm以下焼土・灰白色粘土粒多く含む（粘土主体）
4. 暗灰赤褐色土 粘り強、粘性有、シミ状暗赤褐色土主体に2mm以下焼土粒多く含む
5. 黒褐色土+暗赤褐色土 粘り強、粘性有、4層に類似だが黒色土主体で2mm以下焼土粒を4層より多く含む
6. 暗灰褐色土+黒褐色土 粘り強、粘性有、灰白色粘土と黒色土主体に2mm以下シミ状焼土多く含む、6層上面が炭原機炭面
7. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5層に類似するが、ローム粒・焼土粒はシミ状を呈する、炭原
8. 黒色土 粘り強、粘性有、黒色土のみで、シミ状に5mm以下暗褐色土を極少し含む（電の粘土）
9. 支脚

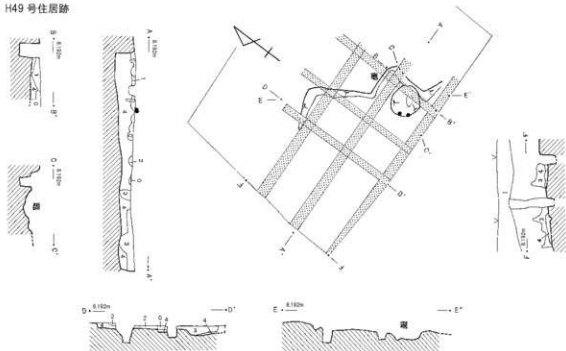
第29図 松山遺跡第85地点H48号住居跡（1/60）、竈・掘方（1/30）

⑥出土遺物 (第32図 1~14)

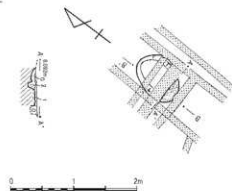
1~4はH48号住居跡、5・6はH49号住居跡

出土である。7~11は溝3出土である。12~14は遺構外出土である。詳細は第18表参照。

H49号住居跡



焼土



H49号住居跡

0. 覆土
 1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、10m以下ロームブロック・1mm以下ローム粒・2mm以下炭化物少し、30m以下腐土多く含む
 2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、20m以下ローム粒少し、20m以下焼土僅かに、黒色土シロ状に含む
 3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10m以下ローム粒僅かに、黒色土シロ状に広がる
 4. 黄褐色土 ローム層
 5. 覆土
 6. 赤褐色土 粘り強、粘性有、焼土硬化面
 7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体に黒褐色土を少し含む

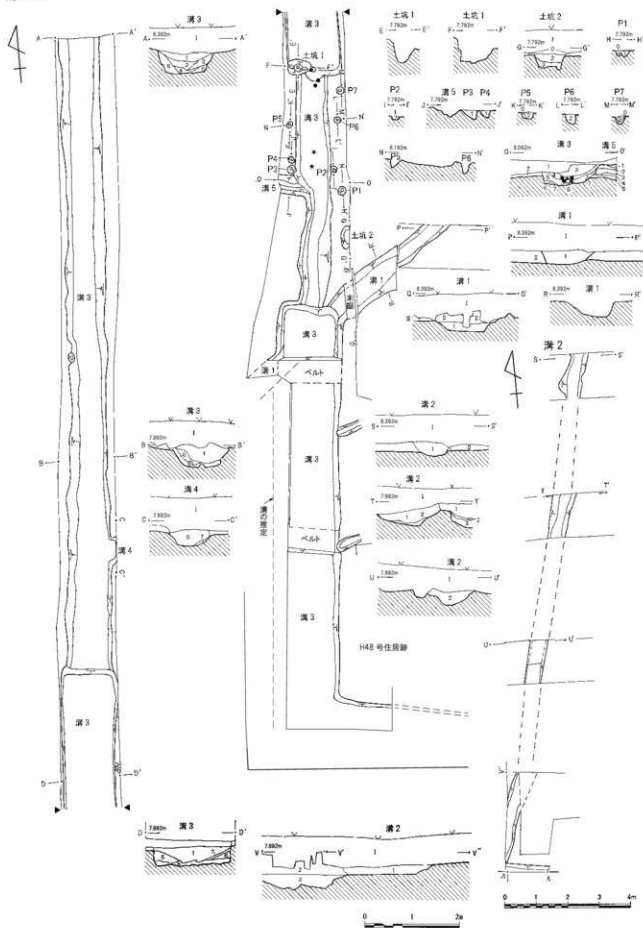
溝3~5 A-A' ~ D-D'

1. 黒色土 粘り弱、粘性有、表土 耕作土
 2. 暗褐色土 粘り弱、粘性有、3~5mmローム粒を微量、酸化鉄粒少量含む
 3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、3~10mmのローム粒・酸化鉄粒を少量含む
 4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1~3mmのローム粒を多数に含む
 5. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム・黒色土がシロ状に入る、中央部粘り強い、酸化鉄粒少量含む
 6. 暗褐色土 粘り弱、粘性有、ローム粒多く、酸化鉄が散状に入る
 7. 暗褐色土 粘り弱、粘性有、1~10mmローム粒多量に含む
 8. 暗褐色土 砂質、2mm以下ローム粒多量に含む
 9. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50m以下ロームブロック主体で30m以下黒色土をやや多く含む
 10. 覆土
 11. 暗褐色土 粘り弱、粘性有、50m以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く、20m以下酸化鉄少し含む
 12. 黒色土 粘り弱、粘性有、50m以下ロームブロック・1mm以下ローム粒少し、10m以下酸化鉄多く含む
 13. 黄褐色土 粘り強、粘性有、ソフトローム主体、黒褐色土シロ状に含む
 14. 覆土 (溝3)
 1. 覆土土 粘り弱、粘性有
 2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、20m以下ロームブロック・1mm以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 粘り弱、粘性有、50m以下ローム粒多く含む
 4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、150m以下ロームブロック・2mm以下ローム粒・1mm大酸化鉄粒粒子少し

5. 黒褐色土 粘り弱、粘性有、4層+50cm以下ロームブロック多く含む
 6. 黒褐色土 粘り弱、粘性有、20m以下ローム粒、砂質土層
 7. 暗褐色土 砂質、6層と比べ砂が多い
 8. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体、50m以下ロームブロック多く、黒色土がシロ状に入る、掘方覆土
 溝1
 S-S'・P-P'・Q-Q'
 1. 黒色土 粘り弱、粘性有、表土・耕作土
 2. 黒色土 粘り強、粘性有、10m以下のローム粒少し含む、埋没面の覆土の可能性有り
 3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、10m以下ローム粒少し含む、住居と違って焼土含まない
 T-T'
 1. 黒褐色土+褐色土
 2. 黒色土 粘り強、粘性有、Ⅱ'のレンジ状層
 3. 黒褐色土+褐色土 ロームブロック主体にシロ状黒褐色土多く含む
 U-U'
 2. 黒色土 粘り強、粘性有、20m以下シロ状酸化鉄やや多く含む、10m以下ローム、焼土粒僅少し含む
 V-V'
 1. 黒色土 粘り強、粘性有、50m以下シロ状酸化鉄少し含む、溝覆土
 2. 黒色土 粘り強、粘性有、1層に類似、10m以下ローム・酸化鉄粒少し含む
 3. 黒色土 粘り強、粘性有、50m以下ローム粒少し、酸化した砂をやや層状に多く含む

第30図 松山遺跡第85地点 H49号住居跡・焼土 (1/60)、溝土層説明

溝1～5

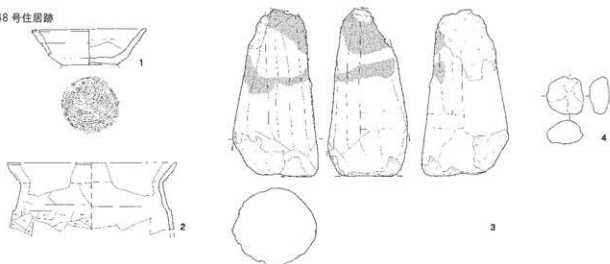


第31図 松山遺跡第85地点土坑・ピット・溝(1/120)、土層(1/80)

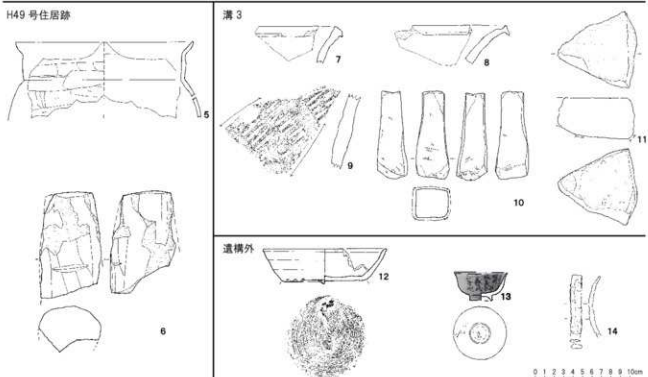
第 18 表 松山遺跡第 85 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号・No	出土遺構名・部位	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	注記・文様・その他・注目 No	推定産地	推定年代
第 32 図 1	H48 号住居跡/床面	御遺器/坪	(12.5)	底径 6.0 内底径 5.6	3.6	轆轤成形/底部有残糸切跡/L/粘土: 灰白色・口縁部の赤褐色・細砂/No.3, 5, 7, 10	東金子	9c 後半
第 32 図 2	H48 号住居跡/床面	土師器/甕	(18.1)	—	(7.2)	轆轤成形/内面ナデ。外底口縁部ナデ・底部強いナデ。以下ケズリ/粘土: 明赤褐色。中粒砂/壁厚 0.3~0.5mm/No.1	—	9c 後半
第 32 図 3	H48 号住居跡/カマド	土製品/支脚	最小 6.0)	(9.2)	(17.7)	表面ケズリ調物/上部に保付筋。空筒的に成形/粘土: 褐色。細砂/重量 0.15.68g/No.19	—	—
第 32 図 4	H48 号住居跡/床面	土製品/粘土塊	4.0	4.0	2.6	粘土: 褐色。細砂/重量 27.97g/No.1	—	—
第 32 図 5	H49 号住居跡/床面	土師器/甕	(18.8)	—	(8.0)	轆轤成形/内面ナデ。外底口縁部ナデ・底部ケズリ後強いナデ。以下ケズリ/粘土: 褐色。中粒砂/壁厚 0.3~0.5mm/No.1	—	9c 後半
第 32 図 6	H49 号住居跡	土製品/支脚	(6.1)	—	(11.2)	表面ケズリ調物/上部破片/粘土: 褐色。細砂/重量有か/2ト 5・3, H3	—	—
第 32 図 7	3号溝跡/覆土	御遺器/甕	—	—	(3.9)	轆轤成形/粘土: 灰色。白色針状物混。石膏粒/3M No.5	由比企	9c 後半
第 32 図 8	3号溝跡/覆土	御遺器/甕(赤用瓦)	—	—	(4.1)	轆轤成形/内外面に自然釉/割付に厚減有り。赤用瓦/粘土: 暗赤灰色。石膏粒少量/3M	—	9c 後半
第 32 図 9	3号溝跡/覆土	陶器/甕(赤用瓦)	—	—	(7.8)	細造り/内面ナデ。外面ナデ・タタキ目/粘土: 表面灰褐色。内面灰色。細砂/3M No.4	常滑	中世
第 32 図 10	3号溝跡/覆土	灰石	9.3	3.35	3.2	60% 残存/石材: 凝灰石/色調: 灰白色/重量 133.33g/3M No.1	—	—
第 32 図 11	3号溝跡/覆土	石臼	(8.1)	(8.4)	4.4	下1/2破片/石材: 花崗岩/重量 378.0g/下部中央部・縁部摩滅/3M No.2	—	—
第 32 図 12	遺構外	御遺器/坪	13.5	底径 8.5 内底径 (8.2)	3.4	轆轤成形/底部右側糸切跡/L/粘土: 灰白色。細砂/3ト系 No.1	東金子	9c ~ 9d
第 32 図 13	遺構外	磁器/小杯	5.6	2.2	3.0	轆轤成形/染付/高砂/詩文・竹節と燕子。高台内に刷刺系ノ 紋 146。刷付無残/5トレ	瀬戸・美濃	1920 ~ 1940 年代
第 32 図 14	遺構外	鉄製品/不明	(6.3)	(1.4)	(0.6)	詳細不明。元は厚みか/重量 (10.8g)/9トレ	—	—

H48 号住居跡



H49 号住居跡



第 32 図 松山遺跡第 85 地点出土遺物 (1/4)

第6章 苗間東久保遺跡第33地点の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と浄禪寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10～11m、現谷底との比高差は1～1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禪寺川対岸には浄禪寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行われた。2016年7月現在33ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年7月14日～25日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1～1.5mのトレンチ7本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、縄文時代とみられるピット数基を確認検出した。現地表面から地山ローム層までの深さは約100cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、住宅の建設には柱状改良を実施するため、遺跡への影響が避けられないことから、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、トレンチ1・2の間と、トレンチ9の北側を重機で拡張し、7月28日～8月1日まで人力による調査を行った。なお、本調査に係る重機とオペレーターについては、土地所有者である株式会社堀井不動産からの提供と協力を得た。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

III 遺構と遺物

試掘調査と本調査で確認検出した遺構は縄文時代の落とし穴1基、ピット9基である。遺物はピット及び遺構外出土である。

① 落とし穴

調査区の北端に位置する。落とし穴の平面形態は長楕円形で、規模は確認面径290×57cm、底径286×30cm、深さ93.3cmである。周辺の状況と土層の観察から縄文時代とみられる。

② ピット

ピットは9基検出した。土層の観察から縄文時代とみられる。各ピットの詳細は第20表を参照。

③ 出土遺物 (第36図1～36)

1は落とし穴出土で、沈線の間に地文LR縄文を充填し、沈線間は磨消す。2は胎土に金雲母を含み地文LR縄文を施す。3・5は無文、4は底部である。



第33図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

7は口唇部内側に1本の沈線を巡らせ、外面に沈線文を施す。8は口縁部近くで、沈線の三角文を施す。9は無文の口縁部、11・12は沈線間を磨消す。10は2本組の沈線で斜行文が三角文とみられる。13は細沈線文を施す。14は地文が無節LR縄文。15は地文縄文に沈線文、16も沈線文を施す。17は朝顔形深鉢土器の口縁部である。口唇部に沈線を巡らせ、山形突起に円形刺突文を外側に4ヶ所、内面に2ヶ所施す。口縁上部は無文、下部に充填縄文で無節LR縄文を施す。18は屈曲する口縁部に2本の平行沈線とその下に、竹管状工具を斜位に押圧する。19はLR多条縄文を口縁上部は横位にその下は縦位に施す。20～22は地文縄文に沈線文を施す。23は細沈線、24～27は沈線文、28は沈線文に磨消しを施す。29～32は無文である。33は無節縄文、34は無文の底部である。35は黒曜石製の石鏃で脚部の一部を欠損する。長さ1.75cm、幅1.25cm、厚さ0.4cm、重さ0.68gである。36はチャート製の石鏃である。長さ1.8cm、幅1.3cm、

厚さ0.35cm、重さ0.65gである。

1は称名寺1式。2は中期の阿玉台式。3、6、15、16、19、20～22、24～34は中期末から後期。4、5は不明。7、8、10、17は堀之内2式。9、11、12は堀之内1式。13、23は堀之内から加曾井B式。18は堀之内1式。35、36は縄文時代である。

第20表 苗間東久保遺跡第33地点ピット一覧表(単位cm)

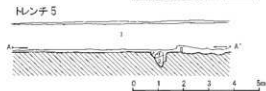
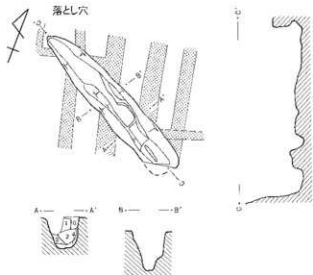
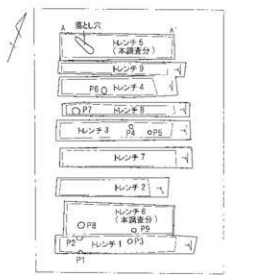
No.	平面形態	確認直径	直径	深さ	備考
1	不明	38×(24)	18×(14)	22.9	
2	円形	50×40	29×28	30.7	
3	楕円形	46×40	20×18	54.8	
4	円形	42×38	25×22	16.1	
5	円形	32×(30)	13×11	20.4	
6	楕円形	65×53	30×18	53.7	
7	円形	58×50	30×21	79.6	
8	円形	(50)×49	35×32	25.4	
9	円形	41×40	16×15	24.4	

第19表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (1/3試掘調査)	面積 (㎡)	調査期別	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井町大字苗間字東久保579-2～8	(1979.4.3～21)	605	共同住宅	炉穴10、土坑14、加曾井B式土器・石器	東部遺跡第1
2	大井町大字苗間字東久保646-6～10	(1979.9.10～10.30)～11.8	530	共同住宅	住居1、縄文中期後半土器	東部遺跡第1
3	大井町大字苗間字東久保642-11・12	(1980.4.7)	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	東部遺跡第2
4	大井町大字苗間字東久保642	(1980.4.16～5.10)	750	共同住宅	住居2、土坑6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡第2
5	大井町大字苗間字東久保636-3	(1980.9.8～2.4)	106	共同住宅	炉穴2、墓石1、土坑3、柱穴32、ピット6、縄文中期後半土器	東部遺跡第2
6	大井町大字苗間字東久保639	(1980.11.27～12.26)	577		住居跡2、炉穴4、土坑23、柱穴6、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡第2
7	大井町大字苗間字東久保573-3	(1982.4.1～3)	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	東部遺跡第3
8	大井町大字苗間字神明台568.7～9	(1982.4.2～9)	360	共同住宅	遺構遺物なし	東部遺跡第3
9	大井町大字苗間字東久保642-1	(1982.11.8～12.5)	660	共同住宅	池状遺構、土坑1、縄文中期後半・石器	東部遺跡第3
10		1984	340		土坑5、ピット45、縄文後期後半・内式土器	未報告
11		1984	560		遺構なし、縄文中期後半式土器 他	未報告
12		1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾井B式土器 他	未報告
13		1984	900		住居跡3、土坑88、ピット10、縄文堀之内式・加曾井B式土器	大井町史資料1
14	大井町大字苗間字東久保635	(1987.4.1)	923		土坑7、ピット92、平安以降ピット6、縄文後期土器	東部遺跡第4
15	大井町大字苗間字東久保635	(1988.12.8～14)	447	共同住宅	土坑7、ピット21、縄文後期称名寺式・堀之内式土器	東部遺跡第4
16	大井町大字苗間645-1	(1989.8.21～24.8.24)	390	共同住宅	住居跡1、土坑2、縄文中期後半・後期前半土器	町内遺跡第1
17	大井町大字苗間636-4	(1991.3.12～15)	583	駐車場	土坑1、縄文中期・後期土器	町内遺跡第1
18	大井町苗間字東久保464.639地	(1992.6.27～9.9.7～10.22)	906	分譲住宅	住居跡3、灰と土坑5、土坑11、ピット14、縄文中期・後期土器	調査報告書5集
19	苗間637-14～16	(1994.2.8～1.6) 2.16～3.25	350	宅地開発	住居跡1、溝と土坑1、土坑5、ピット39、縄文中期後半・後期土器・石器・土製陶器	調査報告書12集
20	苗間637-18・19	(1998.3.18～24) 6.15～8.13	664	個人住宅	土坑28、墓石土坑5、ピット128、縄文後期土器、旧石器、砥石	調査報告書12集
21	苗間字神明後333-1	(1999.8.3～6)	350	個人住宅	土坑2、縄文土器・石器	町内遺跡第3
22	苗間645-11	(2001.10.25)	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡第3
23	苗間字東久保640-9	(2004.9.1)	104	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡第3
24	苗間東久保637-1・28	(2006.3.7～4.20) 4.10～28	561	分譲住宅	縄文時代土坑10、ピット164、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	町内遺跡第2
25	苗間字東久保631-3	(2007.11.1～23)	414	分譲住宅	ピット4、縄文土器	町内遺跡第2
26	苗間字東久保637-3・34	(2010.6.1～11) 7.2～23	429	分譲住宅	縄文後期(住居跡1)、土坑5、ピット99、縄文前期土器	町内遺跡第12
27						
28	苗間字東久保644-1	(2011.7.21～22)	112	個人住宅	縄文時代ピット1、土器片	町内遺跡第14
29	苗間字東久保630-1・3	(2011.7.28～8.1)	216	個人住宅	返田以降土坑1、ピット2、溝4、縄文土器、土製品	町内遺跡第14
30	苗間字東久保641-3、644-4	(2011.8.22～24)	238	個人住宅	ピット5、縄文土器片	町内遺跡第14
31	苗間字東久保644-6・7	(2014.1.20～28)	220	個人住宅	縄文時代土坑1、土器片	町内遺跡第18
32	苗間字神明後334-1、335-1他	(2014.3.6～27) 4.8～5.19	2,989	共同住宅	縄文時代炉穴、中世以降溝堀出、本調査	町内遺跡第16
33	苗間字東久保640-1・10・11	(2016.7.14～25) 7.28～8.1	313	分譲住宅	縄文時代溝と土坑1、ピット9、縄文土器、石器	町内遺跡第19

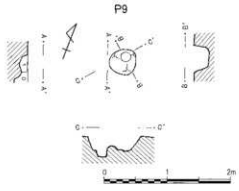
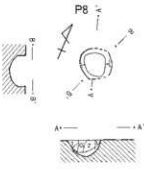
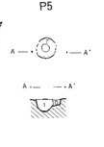
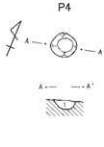
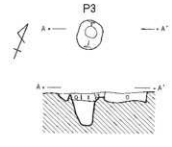
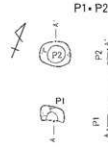


第34図 苗間東久保遺跡遺構分布図 (1/1,000)



坑 H5 南壁

- 1 褐色土 粘り有、粘性有、腐土、ローム主体
- 2 黄褐色土 粘り強、粘性有、旧耕作土、2cm 以下ローム粒少量を含む
- 3 褐色土 粘り有、粘性有、やや硬いローム主体、5mm 以下サイズの褐色土少量含む
- 4 褐色土 粘り有、粘性有、1層より明るく、ほぼ均山ローム主体、5mm 以下サイズの粘褐色土少量含む

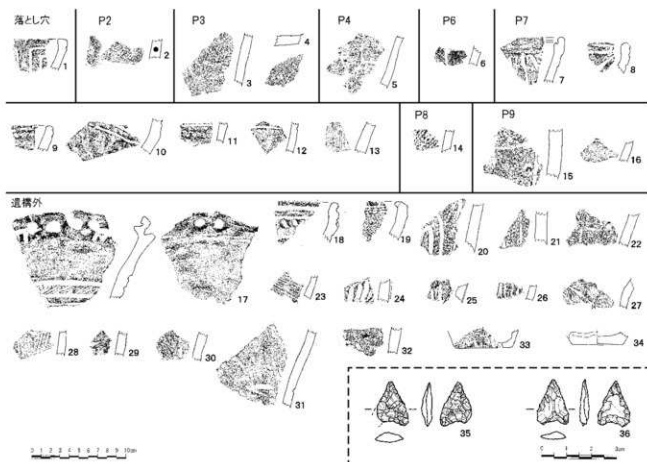


遺し穴

- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘りやや弱、粘性有、1mm 以下ローム粒・赤褐色土・黒色粒少量含む
- 2 暗褐色土 粘り強、1層より明るい、1mm 以下赤褐色粒・黒色粒微量含む
- 3 暗褐色土 粘りやや弱、1mm 以下ローム粒・赤褐色粒微量含む
- 4 暗褐色土 粘りやや弱、ローム主体で色調にやや異質有り
- P1~5
- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘りやや弱、粘性有、1mm 以下ローム粒少量、1mm 以下赤褐色粒少量含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少量、1cm 以下ロームブロック・1mm 以下赤褐色粒少量含む
- 3 暗褐色土 粘り強、粘性有、遷移層
- P6
- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘りやや弱、粘性有、1mm 以下ローム粒少量、1mm 以下赤褐色粒少量含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少量、1cm 以下ロームブロック・1mm 以下赤褐色粒少量含む

- 3 暗褐色土 粘り強、粘性やや弱、2~3mm ロームブロック少量含む
- 4 黄褐色土 粘り強、粘性強、ローム主体、2cm サイズの粘褐色土少量含む
- 5 濃い黄褐色土 粘り有、粘性強、シロ状に黒土が混じる
- P7
- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘り有、粘性有、旧耕作土
- 2 黄褐色土 粘り有、粘性有、旧耕作土
- 3 暗褐色土 粘り有、粘性強、1~5mm ローム粒少量含む
- 4 黄褐色土 粘り有、粘性強、ローム主体、黒土が混じる
- P8
- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック少量含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、5mm ローム粒少量含む
- 3 暗褐色土 粘り有、粘性強、2層より明るい、5mm ローム粒・赤褐色粒微量含む
- P9
- 0 覆土
- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、5mm 以下ローム粒・赤褐色土・黒色粒少量含む

第 35 図 苗圃東久保遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑・ピット (1/60)



第36図 苗間東久保遺跡第33地点出土遺物 (1/4・2/3)

第7章 浄禅寺跡遺跡第40地点の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

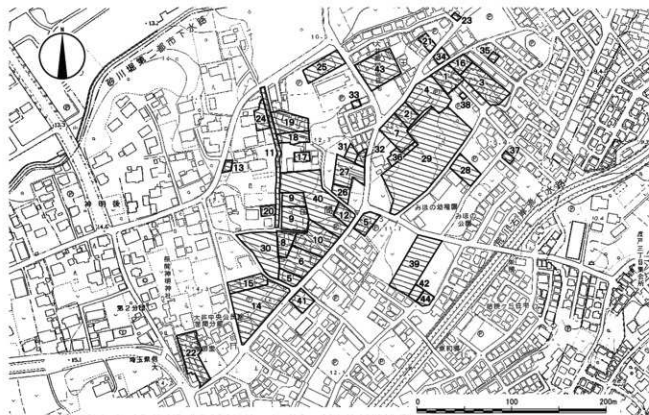
2015年11月現在40地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の菜研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年7月9日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年8月19日～9月30日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ13本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ3・4で縄文時代の住居跡や集石土坑、トレンチ2・3・6・7・10で中近世の溝、トレンチ8・9で中近世のピット等を確認した。現地表面から遺構確認面の地山ローム層までの深さは約30cm～120cmであった。

原因者と再協議の結果、遺構の確認された部分のうち、道路築造部分と切土を行う部分について、遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。他の部分については、約15cm～162cm



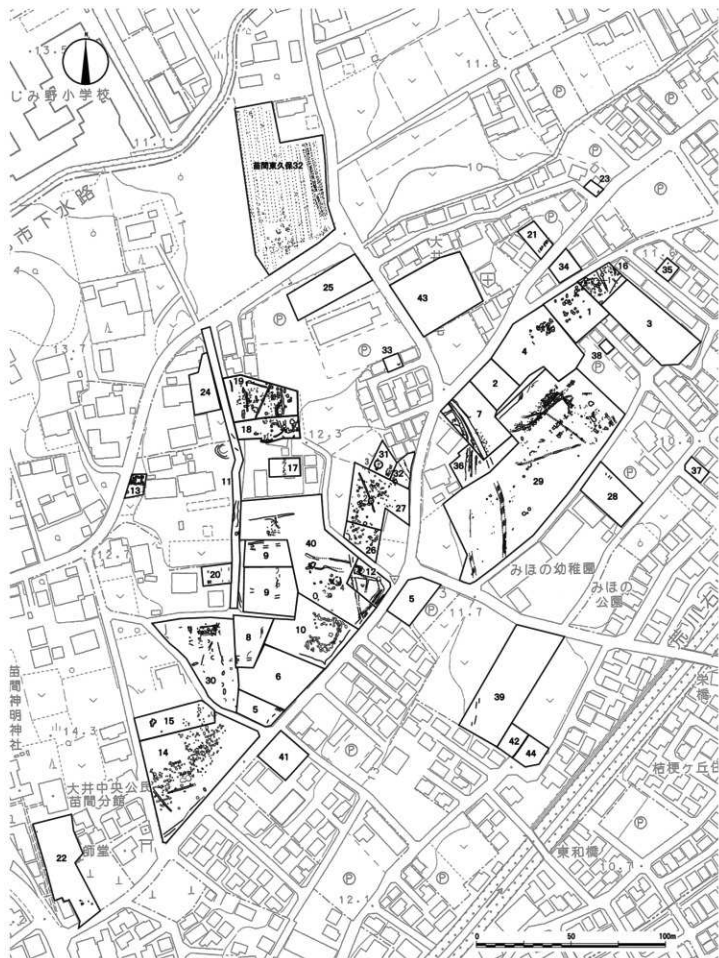
第37図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第21表 浄禪寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	高麗東久保 579	1979.4.3 ~ 21	605	共同住宅	高麗東久保1地点として報告済み(炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期)	東部遺跡部 I
2	高麗東久保 573	1982.4 ~ 3	396	共同住宅	高麗東久保7地点として報告済み遺構なし、磨石縄文土器	東部遺跡部 II
3	高麗東久保 581	1984.7.20~21	320	共同住宅	高麗東久保12地点を浄禪寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	高麗神明後 346-1	1989.11.15 ~ 25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ビット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡部X
5	高麗 374-9	1991.8.28 ~ 9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡部 I
6	高麗 358-1	1991.9.21 ~ 12.26	826	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡部 II
7	高麗東久保 573-4	1992.10.20 ~ 11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、竈3、縄文草→中期	調査公告5集
8	高麗 357-1	(1994.9.20 ~ 27)	615	宅地分譲	溝と七穴、粗切溝	町内遺跡部IV
9	高麗 353	(1994.10.18), 2007.5.22 ~ 24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡部V、市内4
10	高麗 356-1	1994.10.31 ~ 11.2	999	宅地分譲	近世土曜器、一石経埋納土坑、六道瓦、江戸中後期	調査公告12集
11	高麗 352-1 他	(1995.1.9 ~ 2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡部IV
12	高麗 35-95	1995.9.25 ~ 10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ビット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡部V
13	高麗 314-2	(1996.1.8 ~ 29)	101	個人住宅	土坑13、ビット11、井戸1、溝2、縄文早期・後期、陶磁器	町内遺跡部V
14	高麗 360-1.362-2	(1996.6.3 ~ 12)1996.6.18 ~ 7.11	2,178	個人住宅	竈跡3、溝と七穴1、溝4、ビット251、旧土器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡部VI
15	高麗 362-4・5	(1996.6.3 ~ 12)1996.7.12 ~ 8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡部VII
16	高麗 579-1	1997.11.10 ~ 12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ビット61、土坑16、溝4、縄文早期後半・前期、中期	町内遺跡部VIII
17	高麗 345-2・10	(1998.9.29 ~ 10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡部IX
18	高麗 345-3・4	(1999.5.26 ~ 6.24)1999.6.26 ~ 8.3	599	個人住宅	炉穴7、集石土坑3、土坑13、ビット27、溝縄文後期土器、土曜器	町内遺跡部IX
19	高麗神明後 345-4	1999.8 ~ 9	703	分譲住宅	炉穴1、集石、埴土煎4、土坑22、井戸2、溝8、製土5、縄文早期後期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査公告15集
20	高麗神明後 351-1	(2001.10.26 ~ 29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡部X I
21	高麗東久保 591-3、592-7	(2001.11.19~20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡部X II
22	高麗 373-5・8、377-5・3・4	(2002.4.23 ~ 5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ビット4、溝、遺物なし	町内遺跡部X II
23	高麗 592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ビット2、溝、遺物なし	町内遺跡部X II
24	高麗神明後 346-1・2の一部	(2004.8.30~31)	391	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡部X II
25	高麗 339-1・2	(2004.9.22 ~ 10.12)	721	共同住宅	ビット2	町内遺跡部X II
26	高麗神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡部 14
27	高麗神明後 354-2の一部	(2005.3.3 ~ 8)2006.4.17 ~ 28.6.7 ~ 2.23	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ビット21、溝1、縄文中期片	町内遺跡部 3
28	高麗神明後 354-2	(2005.12.1 ~ 2006.1.22)2006.1.23 ~ 2.23	696	道路・分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋溝2、土坑117、ビット127、溝1	市内遺跡部 2
29	高麗宇東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	総合改築	溝2	市内遺跡部 3
30	高麗 570-1・2、571-1・2、575	(2007.8.7 ~ 9.21)2007.9.25 ~ 11.6	4,920	分譲住宅	製石建物跡3、井戸15、土坑15、塚跡1、溝17、陶磁器・板碑他	市内遺跡部 4
31	高麗 359-1	(2007.9.14 ~ 10.9)2007.10.9 ~ 11.2	1,298	分譲住宅	茶屋跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器・板碑他	市内遺跡部 4
32	高麗宇神明後 342-14一部	(2007.2.19)2007.2.19 ~ 3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ビット26、縄文土器・石器	市内遺跡部 4
33	高麗宇神明後 340-17.342-10・15	(2007.2.25 ~ 3.4)	188	個人住宅	塚跡1、ビット1、縄文土器	市内遺跡部 4
34	高麗宇神明後 340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内遺跡部 10
35	高麗宇東久保 586-7.587-2の一部	(2012.8.24)	160	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡部 14
36	高麗宇東久保 582-8	(2012.4.4)	80	個人住宅	ビット1、縄文土器片	市内遺跡部 15
37	高麗宇東久保 573-5	(2012.8.6 ~ 9)2012.9.5 ~ 12	401	宅地造成	土坑2、ビット14、溝5	市内遺跡部 15
38	高麗宇東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡部 15
39	高麗東久保 578-11	(2013.5.14)	53.4	個人住宅	遺構なし、表層土器	市内遺跡部 18
40	高麗 565-1	(2013.6.25 ~ 7.3)	1,709	分譲住宅	中世以降の溝、遺物なし	市内遺跡部 18
41	高麗宇神明後 355-1・2・12	(2015.8.19 ~ 9.30)2015.10.1 ~ 11.9	2,308.06	分譲住宅	縄文時代住居跡1、集石土坑3、溝6、土坑13、ビット51、地下式土坑1、井戸1、縄文土器	市内遺跡部 19
42	高麗宇神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	分譲住宅	遺構・遺物なし	未報告
43	高麗宇神明前 564-3の一部	(2016.4.8)	132.35	分譲住宅	土坑1、遺物なし	未報告
44	高麗宇 589-1	(2016.6.20 ~ 24)	1,402	公園	遺構・遺物なし	未報告
44	高麗宇神明前 564-5	(2016.7.4)	124.05	分譲住宅	溝1、遺物なし	未報告

第22表 浄禪寺跡遺跡住居跡一覧表

住居群別	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉			埋溝	溝溝	主軸方位	時期	備考	文献
						地床	炉体	石囲						
1	1997	16地点1号住居跡	完掘	隅丸方形	295 × 290	○						前期中葉～後半		町内VII
2	2005	27地点2号住居跡	完掘	円形	260 × 265	○	○	○				加賀村E前期		市内2
3	2007	31地点3号住居跡	完掘	円形	420 × 410				○	○		加賀村E前期		市内4
4	2015	40地点4号住居跡	完掘	円形	450 × (450)	○				○		加賀村E前期		市内19



第38図 浄禅寺跡遺跡遺構分布図 (1/2,000)

の盛土を行うため、遺跡への影響がないので、工事立会いの措置とした。試掘調査では旧石器時代の確認調査は行っていない。

本調査は、遺構の確認された部分を重機で拡張し、10月1日～11月4日まで人力による調査を行った。重機による埋め戻し後、11月9日に機材等の撤去を完了した。

調査区をA区～D区の4区に設定した。A区は開発区域の南東端、トレンチ1から4の先端部。B区はトレンチ4の東部。C区は調査区中央部のトレンチ1からトレンチ5の範囲。D区はトレンチ8・9の一部とした。

調査はC区に5×5m方眼の区画を設定し、遺構の平面図作成と遺物の取り上げを行った。その他の調査区では平板測量を実施した。

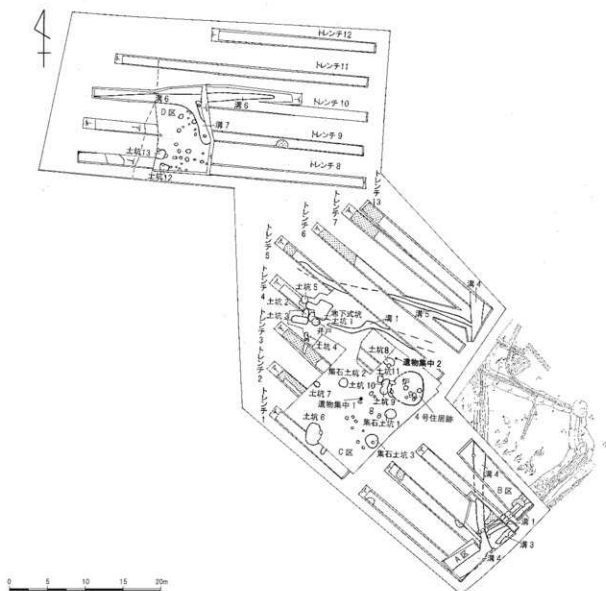
Ⅲ 遺構と遺物

試掘調査および本調査で確認検出した遺構は、縄文時代中期末住居跡1軒、集石土坑3基、土坑13基、ピット51基、地下式坑1基、井戸1基である。発掘調査段階では、縄文時代の住居跡は2軒としていたが、炬や柱穴、周溝の有無等から4号住居跡1軒とした。

縄文時代の遺構である4号住居跡や集石土坑等の遺構は、浄禪寺川と砂川堀の間の台地が馬の背状に延びる平坦部に広がる。これまでの調査でも、縄文時代前期黒浜式住居跡を北端で、縄文時代中期の住居跡2軒を中央部で検出しており、今回の調査でも新たに1軒検出された。

① 4号住居跡

【位置・時期】調査区の中央部に位置する。西側の半分は削平されている。加曾利EⅢ期。



第39図 浄禪寺跡遺跡第40地点遺構配置図(1/500)

【形状・規模】平面形態はほぼ円形を呈するとみられる。規模は、南北に450cm、東西(450)cm、深さ24.5cmである。周溝はない。

【炉】炉は住居跡中央部に位置する地床炉である。削平により楕円形の焼土範囲を確認した。焼土範囲の規模は53×41cm、焼土の厚さ5～8cmである。

【埋裏】埋裏は住居内の北西部に、2基が南北に並んで位置する。北側を埋裏1、南側を埋裏2とした。

埋裏1は土器の底部を下にした正位置の状態で埋設する。土器の上部と胴部の一部は削平され欠損する。掘方はほぼ円形で上端径(31)×40cm、下端径(27)×27cm、深さ13.7cmである。

埋裏2は胴部から底部を欠損する土器を、口縁部を下にした逆位置の状態で埋設する。北側の半分は耕作で削平され欠損する。

掘方はほぼ楕円形で上端径39×34cm、下端径10×10cm、深さ12.7cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴はP4・5～9とみられる。各ピットの詳細は第23表のとおりである。

【遺物出土状況】住居跡床面から覆土層にかけて埋裏1・2周辺に僅かに出土する。

【出土遺物】(第42図1～20) 1は埋裏1で、口縁部無文で一對の環状把手(耳)をもつ。口縁部下に隆帯の楕円形区画を配し、中に地文LR縄文を施す。胴部以下は地文条線文を施す。胴部最大径41cm、底径7cm、残存部高30.5cmである。

2は埋裏2で口縁部に隆帯で波状文を配する。隆帯で区画した上部に地文RL縄文を横位に、胴部は縦位に施し、2本組沈線の懸垂文間を磨り消す。推定口径35cm、残存高26cmである。

3は隆帯の区画内にLR縄文を施す。4は口縁部無文で頸部に横位沈線を巡らせ、胴部に6～7本単位の地文条線を配する。5は口縁部無文で地文RL縄文を施す。6は波状口縁で、口縁部は無文、横位沈線の区画内には地文縄文を施す。7は地文RL縄文に沈線区画文を配する。8は口唇部直下の横位沈線に円形刺突

文を施し、地文RLR複節縄文を施す。9は地文条線で波状口縁が。10は微隆起線文に摘み上げた突起が付き、地文はLR縄文と磨り消しを施す。

11は地文RIに微隆起線文と幅広磨り消しを施す。12は地文RLに沈線と幅広磨り消しを施す。13も地文縄文に微隆起線文と幅広磨り消しを施す。14は沈線文と幅広磨り消し、15は磨り消しを施す。16・17は地文条線。18は沈線文間に竹管状工具の刺突を施す勝坂Ⅲ式。

19は無文、20は沈線の懸垂文と磨り消しを施す。1、2は加曾利EⅡ式新相からⅢ式。4～17、19・20も加曾利EⅡ式新相からEⅣ式である。3はピット9出土、6・11・16・18～20はトレンチ一括出土遺物。4・5は埋裏1出土、他は住居跡出土である。

第23表 浄淨寺跡遺跡第40地点4号住居跡ピット一覧表 (cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考(旧名称)
1	楕円形	49×32	31×19	20.8	
2	不明	(79)×47	47×25	35.1	動物穴
3	不明	50×(23)	30×(9)	22.3	
4	円形	33×33	18×14	37	旧P36
5	円形	32×26	22×12	22	旧P37
6	楕円形	39×27	14×11	68.6	旧P35
7	だるま形	80×38	16×15	21.7	仮2住P7
8	不明	37×(26)	26×(19)	10	仮2住P8
9	不明	51×(37)	12×10	41.1	仮2住P4

②集石土坑

集石土坑はC区、台地の平坦部から北側に傾斜する部分で3基を検出した。出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

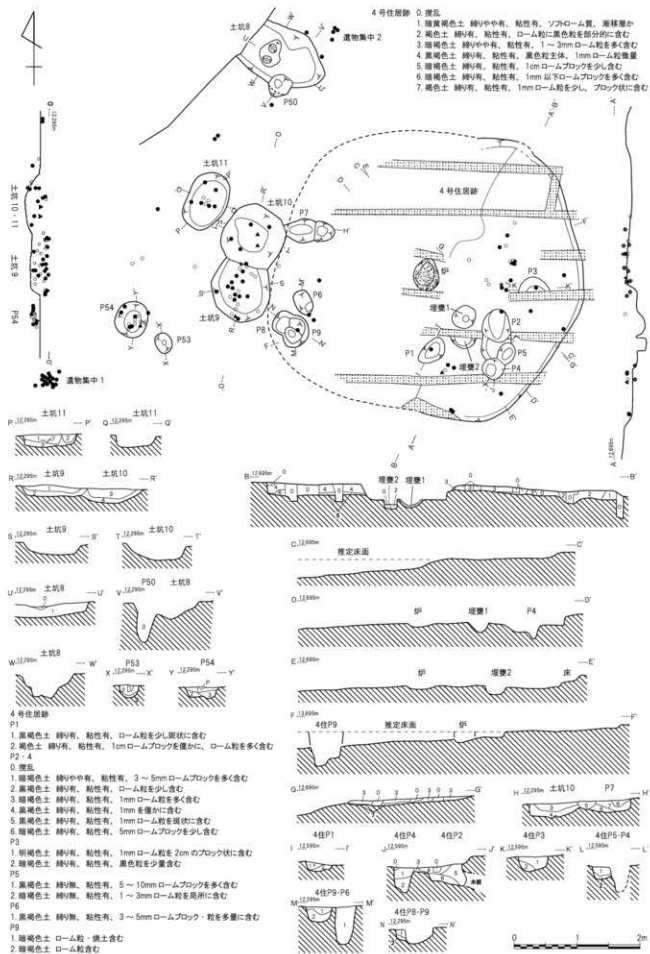
集石土坑から出土する礫は集石土坑2が最も多く次いで集石土坑1と集石土坑3である。集石土坑1～3の平面形態は円形もしくは楕円形である。集石土坑の詳細及び出土礫については、第24表を参照。

③地下式坑

調査区C区に位置し、井戸1、土坑1・2と重複す

第24表 浄淨寺跡遺跡第40地点集石土坑・出土礫観察表 (単位cm・個数・g(%)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	傾角	総点数	総重量	平均重量	磁石数	片石数	焼成数	未焼成数	9-6-4層付点数	9-6-4層付重量
1	円形	131×127	49×49	38.4		708	61,205.67	86.45	645(91.10%)	63(8.90%)	157(22.18%)	55(77.82%)	220(31.92%)	482(68.08%)
2	不明	(105)×79	(98)×38	19.8		1,193	78,035.33	65.41	979(82.09%)	214(17.94%)	370(31.01%)	823(68.99%)	398(33.30%)	795(66.64%)
3	楕円形	189×133	181×123	9.8		23	1,394.98	60.65	12(52.17%)	11(47.83%)	11(47.83%)	12(52.17%)	10(43.48%)	13(56.52%)



第40図 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡・土坑①・ピット①・遺構外遺物集1・2 (1/60)

る。土層の観察から井戸1、土坑1・2より地下式坑の埋没が新しい。遺物は入口部の覆土の下層から常滑産糞の破片が比較的まとまって出土する。

地下式坑の平面形態は凸形で、方形の入口を西側に持ち、室部は長方形を呈する。入口部と室部の間に小ピット1基が存在する。ピットは円形で規模は上端10cm、深さ21.6cm。入口部、室部ともに底部はほぼ同じ高さで平坦である。

遺構長軸3.12×短軸2.45m、室部長軸2.35～2.5m×室部短軸1.45～1.9m、室部底面1.75×2.33m、深さ1.51mである。

入口部長軸1.3m×入口部短軸0.9m、入口部底面0.82×0.87m、深さ1.47mである。

④井戸

調査区C区に位置し地下式坑と重複する。土層の観察から井戸の覆土層より地下式坑の覆土層が新しい。

平面形態は円形で、規模は確認直径108×97cm、底径37×29cm、深さ209.7cmである。底部より25～50cm上層でややまとまった常滑産糞の破片が出土する。風炉とみられる破片は、地下式坑覆土層出土のものと同一体である。

⑤土坑

土坑は調査区C区で縄文時代3基と中近世期2基、調査区D区で中近世期2基が検出された。また、地下式坑と井戸の周辺から中近世期の土坑4基が検出された。土坑8～10は調査段階では住居跡としていたが、土坑に変更した。土坑2からまとまった炭化物が出土し、茶毘跡の可能性も考えられるが、骨らしきものは出土していない。各土坑の詳細は第25表を参照。

⑥ピット

調査区C区、D区で縄文時代と中近世期のピットが

まとまって検出された。ピットの配置から掘立柱建物跡とみられるものはない。各ピットの詳細は第26表を参照。

⑦溝

溝は6本(溝1・3・4・5・6・7)を検出した。名称については、隣接する第12地点の名称をそのまま使用した。溝1と溝5は第12地点からの続きである。溝4と重複するが、溝4が古い。溝6と溝7については、新旧関係は不明である。

溝4は第10地点および第12地点の調査でも確認されている。第10地点では、西側道路に沿うように「く」の字形に延びており、今回の調査で東側も「く」の字形に北方向へ屈曲するのが確認された。浄禅寺に関する何らかの溝と考えられてきたが、その可能性が一層強くなった。

【溝1】断面形態は浅い「U」字状で上幅29～100cm、下幅12～30cm、深さ36.8cmである。

【溝3】断面形態は浅い皿状で上幅44～81cm、下幅22～50cm、深さ20.8cmである。

【溝4】断面形態は葉研状で上幅69～180cm、下幅20～81cm、深さ130.9cmである。

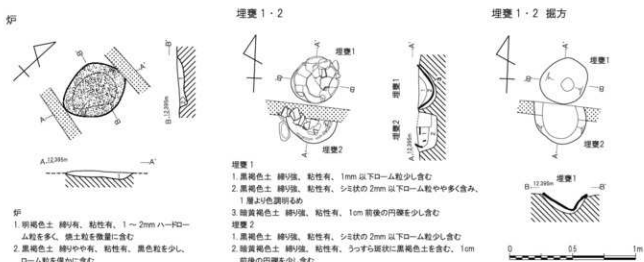
【溝5】断面形態は「U」字状で上幅34～62cm、下幅7～17cm、深さ35.5cmである。

【溝6】断面形態は「L」字状で上幅42～95cm、下幅20～53cm、深さ64.1cmである。

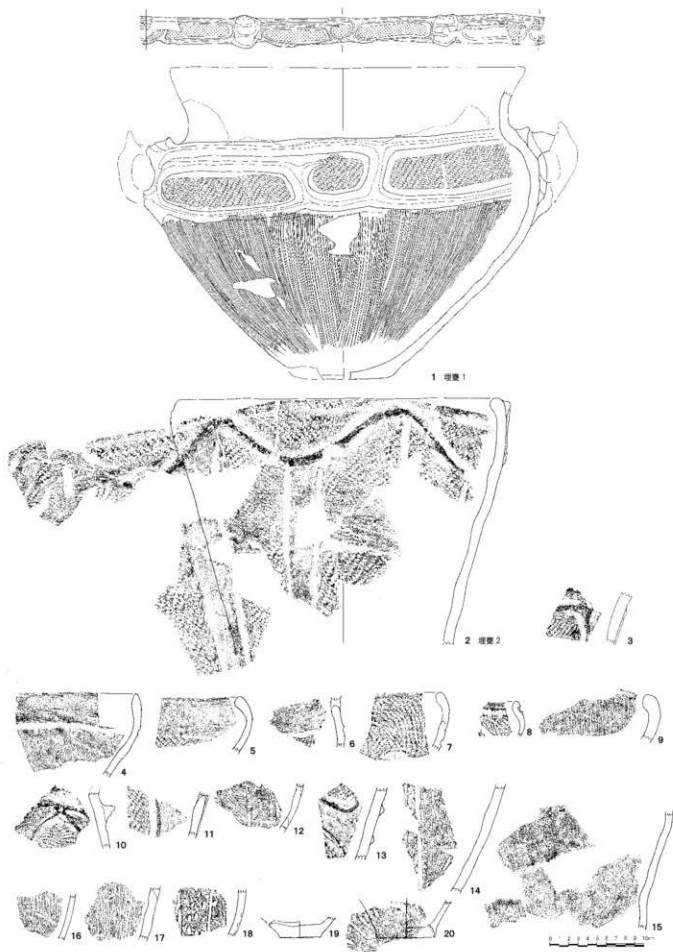
【溝7】断面形態は浅い皿状で上幅74～131cm、下幅51～105cm、深さ29.4cmである。

⑧遺構外遺物集中1・2

本調査において調査区C区で遺物が集中して出土するのが確認された。調査段階では縄文時代の住居跡と考えたが、炉跡や他の施設が確認されないため、遺構

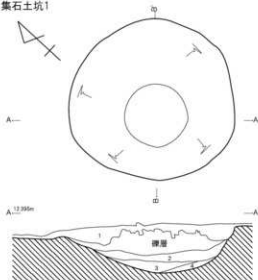


第41図 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡炉・埋壁・掘方(1/30)

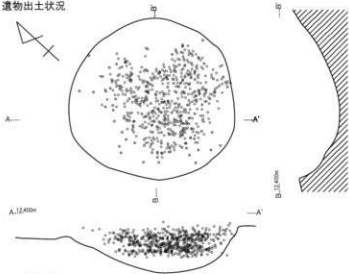


第42図 浄禪寺遺跡第40地点4号住居跡出土遺物 (1/4)

集石土坑1



遺物出土状況



集石土坑1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下焼土粒子・2mm以下炭化物粒僅かに含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm次ローム粒を少し、1mm焼土粒をやや多く含む、礫少量有り
3. 黒赤褐色土 締り強、粘性有、1～2mmローム粒を多く、1mm焼土粒を塊状に多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1～2mmローム粒を多く、1mm焼土粒を僅かに含む

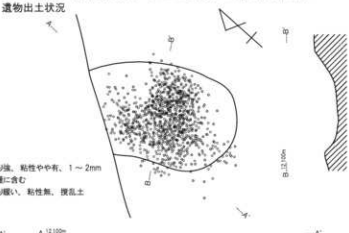
集石土坑2



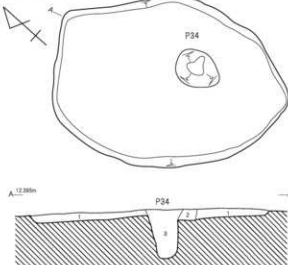
集石土坑2

1. 黒褐色土 締り強、粘性やや有、1～2mmローム粒を微量に含む
2. 黒褐色土 締り弱い、粘性無、攪乱土

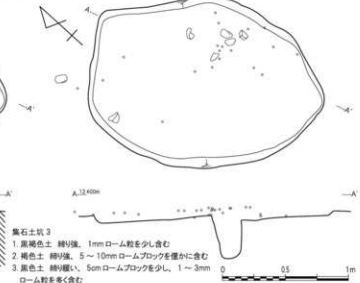
遺物出土状況



集石土坑3



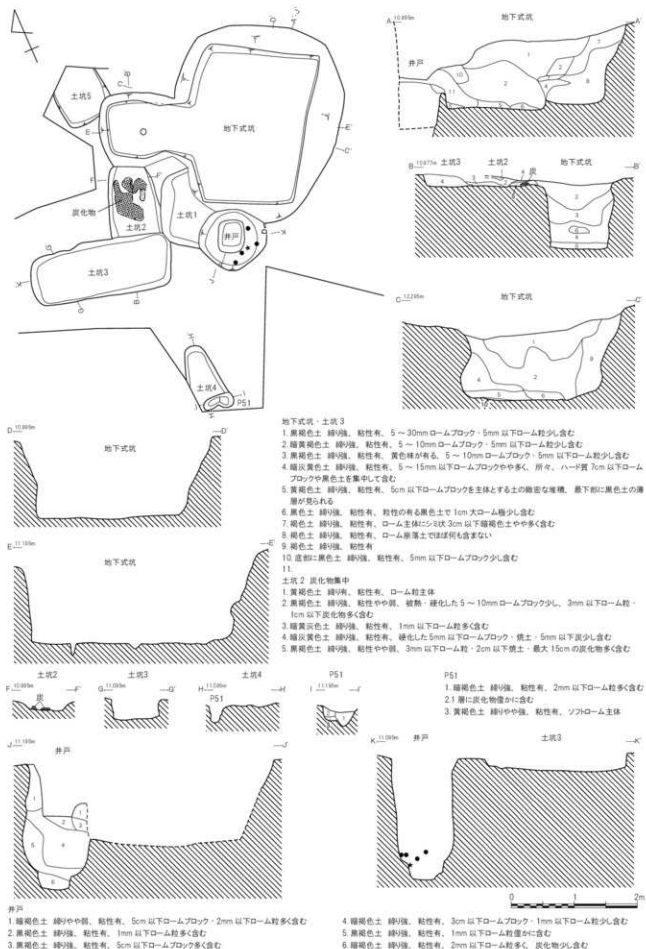
遺物出土状況



集石土坑3

1. 黒褐色土 締り強、1mmローム粒を少し含む
2. 褐色土 締り強、5～10mmロームブロックを僅かに含む
3. 黒色土 締り弱い、5cmロームブロックを少し、1～3mmローム粒を多く含む

第43図 浄禅寺跡遺跡第40地点集石土坑1～3 (1/30)



第44図 浄禪寺跡跡第40地点地下式坑・井戸・土坑②・ピット② (1/60)

第25表 浄禅寺跡遺跡第40地点土坑一覽表 (cm)

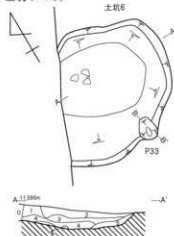
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	125×(87)	110×(67)	26.9	地下式坑・井戸と重覆、土坑2と3に接する
2	不明	(107)×80	(107)×80	18.6	地下式坑・土坑1と接する。土坑3と重覆
3	楕円長方形	226×89	210×74	38.6	土坑1と接する。土坑2と重覆
4	不明	(87)×50	(77)×43	9.7	P51と重覆
5	不明	(95)×83	(91)×73	24.3	
6	楕円形	270×(205)	(135)×112	63.8	
7	円形	85×80	45×39	36.8	
8	不明	(128)×86	(117)×64	42.5	P50と重覆
9	不明	93×(90)	(74)×67	20.2	旧版2住P5、土坑10と重覆
10	不明	98×95	64×44	27.5	旧版2住P6、土坑9と重覆
11	楕円形	94×64	75×50	20.4	旧版2住P3
12	不明	125×(83)	105×(64)	24.5	旧土坑9
13	不明	126×113	114×96	31.6	旧土坑10

第26表 浄禅寺跡遺跡第40地点ビット一覽表 (cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	52×50	44×35	38.2	
2	方形	26×23	10×11	21.3	
3	方形	25×20	9×8	28.3	
4	方形	28×22	12×8	15.6	
5	不明	36×(36)	18×(17)	25.8	P6と重覆
6	不明	30×21	8×4	39.3	P5と重覆
7	不明	(50)×46	37×30	23.5	
8	楕円方形	63×50	62×29	49.5	
9	円形	30×29	13×12	31.3	
10	円形	41×37	12×12	46.8	
11	(円形)	25×(25)	10×5	10.9	
12	(楕円形)	(57)×46	42×37	68.8	
13	(楕円形)	42×(30)	20×15	31.7	
14	不明	41×(27)	26×13	51.1	P31と重覆
15	(円形)	(49)×45	15×13	39.1	土坑13と重覆

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
16	方形	29×27	20×15	23.5	溝7内
17	(楕円形)	(53)×38	19×10	50.3	
18	(円形)	(31)×(31)	7×4	24.1	
19	方形	27×25	15×10	28.2	
20	円形	38×37	25×22	12.4	
21	円形	25×18	14×8	10.3	
22	(楕円方形)	(56)×(52)	20×19	34.3	
23	円形	21×18	7×7	20.3	
24	円形	23×20	10×9	30.9	
25	円形	30×25	5×4	50.8	
26	円形	29×27	22×19	13.5	
27	円形	42×40	20×20	44.1	
28	(楕円形)	(66×48)	23×20	48.6	
29	(三角形)	(31)×(20)	11×6	.37	
30	円形	21×19	11×5	22.5	
31	(楕円形)	39×30	15×12	43.1	P14と重覆
32	楕円形	33×(29)	20×16	24.9	
33	楕円形	36×30	16×7	32.8	
34	楕円形	37×29	15×14	33.2	集石土坑3内
35~37					穴蓋
38	楕円形	41×30	13×9	5.1	
39	方形	33×29	12×7	40.9	
40	方形	21×20	11×8	20	
41	方形	39×29	24×18	45.8	
42	楕円形	40×29	20×15	34	
43	円形	34×29	11×6	19.2	
44	楕円形	45×25	16×11	4.1	
45	円形	34×29	17×17	23.1	
46	円形	30×26	10×5	24.2	
47	方形	32×25	19×18	22.4	
48	円形	35×35	20×16	22.4	
49	三角形	39×27	9×6	28.0	
50	円形	37×34	13×12	63.3	土坑8内
51	ひょうたん	50×23	20×9	34.7	
52	不明	41×(33)	20×15	44.9	
53	円形	32×26	8×6	23	旧版2住P1
54	円形	56×50	34×26	21	旧版2住P2

土坑6・P33



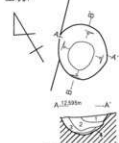
土坑6

1. 黒褐色土 粘り強。粘性やや中。5m 大ロームブロックを僅かに、1~2mm ローム粒を多く含む
2. 黒褐色土 粘りやや中。粘性やや中。1mm ローム粒を少し含む
3. 黒褐色土 粘りやや中。粘性やや中。1~2mm ローム粒を少し含む
4. 黒褐色土 粘りやや中。粘性やや中。1~2mm ローム粒を多く含む
5. 黄褐色土 粘りやや中。粘性やや中。ハードローム粒を多量に含む。扇形。東方の土

P33

1. 黒褐色土 粘り強。5~10mm ロームブロック・2~3mm ローム粒多く。黒色土少し含む

土坑7



土坑7

1. 暗褐色土 粘りやや中。1mm ローム粒・1mm 以下黄色粒 炭化物を少し含む
2. 黒褐色土 粘りやや中。1mm 以下ローム粒少し。1mm 以下黄色粒 炭化物を僅かに含む
3. 黒褐色土 粘りやや中。1mm 以下ローム粒を多く含む。黒色土を少し含む
4. 黄褐色土 粘り強。ソフトローム層

土坑11

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒・塊土粒を僅かに含む
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。1cm ロームブロックを僅かに、1mm ローム粒少し含む
3. 暗褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒を1~2cm のブロック状に多く含む

土坑9・10・住居内P7

1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。ローム粒を顕状に少し含む
2. 褐色土 粘り強。粘性有。ローム粒を1cm 程度のブロックで少量含む。1~2mm 塊土粒を僅かに含む
3. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒を少し。塊土粒を僅かに含む
4. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5~10mm ロームブロックを少し。1mm ローム粒を多く含む
5. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒を少し。塊土粒・炭化物を僅かに含む
6. 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒を僅かに含む
7. 暗褐色土 粘り強。粘性有。1mm ローム粒を少し含む
8. 褐色土 粘り強。粘性有。1~2mm ローム粒を多く含む

土坑9-P38~50

1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。土坑5覆土。2mm 以下ローム粒少し。1mm 黒色粒子・塊土粒を僅かに含む
2. 黒褐色土 粘りやや中。粘性有。3cm 以下ロームブロック・1mm ローム粒を多く含む。炭化物粒少し含む
3. 黒褐色土 粘りやや中。粘性有。2mm 以下ローム粒を少し含む
4. 暗褐色土 粘りやや中。粘性有。2cm 以下ロームブロック・1mm 以下ローム粒を少し含む

0 1 2m

第45図 浄禅寺跡遺跡第40地点土坑③ (1/60)